

**鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
26**

平成22年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2012年3月

序文

鹿児島大学キャンパスは、後期旧石器時代から現代までの時期にわたる多くの貴重な埋蔵文化財が包蔵されている遺跡です。鹿児島大学埋蔵文化財調査室によって大学構内の発掘調査が行われており、その成果は、これまでに『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』vol.1～25、『鹿児島大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書』第1～6集として逐次報告されてきました。

今年度は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室の平成22年度の事業報告として『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報』26を刊行することになりました。平成22年度は、発掘調査1件、試掘調査2件、立会調査9件、その他事業14件を実施しました。本書にはそれらの概要等が掲載されています。

現在も、キャンパス内では建物の建築や周辺整備などが行われ、それに先立ち文化財保護法に基づいた埋蔵文化財調査が行われています。学内施設整備が円滑に進むよう、またその調査報告書を早期に刊行することで調査成果を社会に還元できるよう、埋蔵文化財調査室は全力を尽くす所存です。

キャンパス内から出土する貴重な大学の財産、県民・国民の財産としての埋蔵文化財の調査及び研究を行うための体制の実現について、重ねてご理解とご支援をお願い申し上げます。

鹿児島大学埋蔵文化財調査室長
鹿児島大学埋蔵文化財調査室委員長
新田 栄治

例 言

1. 本書は、平成 22 年度 (2010) 年度に鹿児島大学埋蔵文化財調査室が実施した事業の概要報告である。
2. 本書に掲載している発掘・試掘調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。立会調査は、鹿児島市教育委員会が担当し、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が補助した。
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行った。担当者は以下の通りである。
遺物実測 寒川朋枝・濱田綾子・河野裕次・赤尾和洋
製図 寒川・濱田・篠原美智子
遺物写真撮影 河野・恵島瑛子・寒川
作表・執筆 寒川
編集 寒川・中村・新里
4. 本書掲載の陶磁器類については、渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部教授）、縄文土器については本田道輝氏（鹿児島大学法文学部教授）の御教示を受けた。
5. 本書で報告している遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理のもと、学内の出土部局収蔵施設にて保管している。また、図版・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡 例

1. 昭和 60 年 6 月 1 日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように、鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は以下のとおりである。
 - （1）郡元団地では、国土座標第 2 座標系（ $X = -158,200$, $Y = -42,400$ ）を基点として一辺 50 m の方形地区割りを行った（Fig. 2 参照）。
 - （2）桜ヶ丘団地では、国土座標第 2 座標系（ $X = -161,600$, $Y = -44,400$ ）を基点として一辺 50 m の方形地区割りを行った（Fig. 3 参照）。
2. 本報告書におけるレベル高は、すべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
3. 本書で使用した遺構の表示記号は、以下の通りである。
4. 土層・遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。
5. 遺物に関しては観察表を作成した。その標記、表現については以下の通りである。

調整：調整名称の前の（ ）は、調整方向を表す。（—）；横位方向，（|）；縦位，（\）；左上がりの斜位，（/）；右上がりの斜位，（？）；方向不明，とした。→は、調整の新旧関係を表す。
6. 本文中の遺物番号は通し番号を付し、挿図・図版・遺物観察表と一致している。

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぼう にじゅうろく							
シリーズ名								
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 26							
編著者	寒川朋枝・中村直子・新里貴之							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒 890-8580 鹿児島市郡元一丁目 21 番 24 号 Tel 099-285-7270 Fax 099-285-7271							
発行年月日	2012 年 3 月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地	鹿児島市 郡元一丁 目 20-15	4620	1-23-0	31. 572348°	130. 54575°	2010 年 4 月 12 日～ 2011 年 3 月 29 日	218㎡	施設 整備 事業
鹿児島大学構内 遺跡桜ヶ丘団地	鹿児島市 桜ヶ丘 8 丁目 35- 1	4620		31. 548192°	130. 52642°	2010 年 3 月 22 日～ 2011 年 1 月 11 日	214㎡	施設 整備 事業
所収遺跡	主な時代		主な遺構		主な遺物			特記 事項
鹿児島大学構内 遺跡郡元団地	近世～近代 古墳時代				陶磁器 成川式土器片			立会 調査
鹿児島大学構内 遺跡桜ヶ丘団地	近世～近代 縄文時代 弥生時代				陶磁器類 岩元式・前平式、剥片石器 弥生土器			試掘 調査 立会 調査

目 次

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則	1
鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則	2
I 平成 22 (2010) 年度の事業概要	4
II 試掘調査	9
2010-1 桜ヶ丘団地 G-10 区 (医学部レジデントハウス建設予定地) 試掘調査	
2010-2 桜ヶ丘団地 D~F-3・4 区 (桜ヶ丘病棟新営工事に伴う仮設道路・駐車場) 試掘調査	
III 立会調査	21
IV 遺物整理	36
V 刊行物	36
VI 遺物保管	36
VII その他の事業	36

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人鹿児島大学常置委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条第3項に基づき、国立大学法人鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 鹿児島大学埋蔵文化財調査室長（以下「調査室長」という）。

(2) 各学部の教授、准教授又は講師のうちから選出された者各1名。

2 前項第2号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする（審議事項）。

第3条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 埋蔵文化財調査室の予算に関すること。

(3) その他埋蔵文化財の業務に関すること。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、第2条第1項第1号をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員長は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鹿児島大学学則（平成16年4月1日制定）第7条第2項の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という）に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 調査室は、鹿児島大学（以下「本学」という）の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い、本学内に存在する埋蔵文化財の保護を講ずることを目的とする。

(業務)

第3条 調査室は、次の業務を行う。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査および確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

(職員)

第4条 調査室に、次の職員を置く。

- (1) 調査室長（以下、「室長」という）
- (2) 主任
- (3) その他必要な職員

第5条 室長は、本学の考古学に関連する教員の中から国立大学法人鹿児島大学学内共同研究施設等人事委員会（以下「委員会」という）が推薦し、学長が選考する。

- 2 室長は、調査室の業務を掌理する。
- 3 室長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 室長に欠員を生じた場合の補欠の室長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主任等)

第6条 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し、学長が選考する。

- 2 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。
- 3 職員は、調査室の業務に従事する。

(事務)

第7条 調査室に関する事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、調査室に関し必要な事項は、別に定める。

附則1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 この規則施行後、最初の室長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（平成 22 年 4 月 1 日現在）

委員長 新田栄治（埋蔵文化財調査室 室長）

委員 本田道輝（法文学部）

竹内 宏（教育学部）

笠井聖仙（理学部・理工学研究科）

吉留厚子（医学部）

山中淳之（歯学部）

土井俊哉（工学部）

松元光春（農学部）

山田章二（水産学部）

小片 守（大学院医歯学総合研究科）

鹿児島大学埋蔵文化財調査室（平成 22 年 5 月 1 日現在）

室長（併）法文学部教授 新田栄治

主任 准教授 中村直子

助教 新里貴之

特任助教 寒川朋枝

技術補佐員 篠原美智子

福永美保子

東友子

濱田綾子

I 平成 22 (2010) 年度の事業概要

平成 22 (2010) 年度は、発掘調査 1 件、試掘調査 2 件、立会調査 9 件を実施した (Tab.1)。発掘調査 2009-4 桜ヶ丘団地新病棟建設工事については、本年度報告書が刊行されるため、そちらを参照されたい。遺物整理作業は 2 件、刊行物として、発掘調査報告書第 6 集、年報 25 を刊行した。そのほか、遺物保管作業 3 件、また普及啓発活動として公開講座のほか、桜ヶ丘団地の発掘調査時に採取された粘土を用いての陶芸教室、土器野焼き実験などを実施した。試掘調査、立会調査の詳細、その他の事業に関しては、下に記す。

Tab.1 平成 22 (2010) 年度事業一覧

事業	コード	調査区	工事名称	担当者	期間	
発掘	2009-4	桜ヶ丘 D・E-6・7	新病棟建設工事	中村	2010 年 3 月 11 日～2011 年 1 月 19 日	
試掘	2010-1	桜ヶ丘 G-10	レジデントハウス建設工事	新里	2010 年 7 月 20 日～2010 年 7 月 27 日	
試掘	2010-2	桜ヶ丘 D～F-3・4	仮説道路・駐車場工事	新里	2010 年 3 月 22 日～2010 年 3 月 24 日	
事業	コード	調査区	工事名称	担当者		工事期間
				市教委	調査室	
	2010-A	郡元 L・K-11,L-7,F-7	学内環境改善工事	有川	寒川	2010 年 4 月 12 日
	2010-B	郡元 J-11・12	工学部管理棟改修工事	藤井	新里	2010 年 6 月 28 日, 7 月 5 日
	2010-C	桜ヶ丘 K-8,G-7・9,F-I-10	基幹整備 (ガス管改修) 工事	佐々木, 上村, 藤井	新里	2010 年 8 月 25,30-31 日, 9 月 21 日 2011 年 2 月 14-16 日, 2 月 21,24 日
立会	2010-D	郡元 I-12	機械工学科 2 号棟電気室改修工事	野邊	新里	2010 年 12 月 6 日
	2010-E	桜ヶ丘 G-10	レジデントハウスその他新営工事	上村	新里	2011 年 1 月 11,31 日
	2010-F	桜ヶ丘 H-10	看護師宿舎駐車場整備工事	-	新里	2010 年 11 月 2 日
	2010-G	郡元 G・H-9・10, 桜ヶ丘 K・L-8	基幹整備 (防災設備等改修) 工事	上村	新里	2011 年 1 月 5,11 日
	2010-H	郡元 R-4	附属小・幼稚園内水道設備工事	野邊	中村	2011 年 3 月 29 日
	2010-I	郡元 R・S-5・6	附属小学校校内樹木移植工事	野邊	中村	2011 年 3 月 29 日
事業	コード	調査区	内容	事業	担当者	
遺物整理	1975-1	郡元	釘田第 1 地点発掘調査	実測・トレース	寒川・篠原・福永・濱田・東	
	2009-A-Q	郡元・桜ヶ丘	2009 年度立会調査	洗浄・注記・実測・トレース	寒川・篠原・福永・濱田・東	
事業	内容	担当者	発行			
刊行物	報告書	鹿児島大学埋蔵文化財調査報告書 第 5 集	寒川・松永・中村・新里	2011 年 3 月		
	年報	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 24	新里・中村・寒川	2011 年 3 月		
事業	内容	担当者	期間			
遺物保管	遺物保管場所確認作業	10ヶ所	中村・新里・寒川	2010 年 5 月 21 日, 6 月 8,11,14 日		
	遺物受け入れ作業	伝農学部出土遺物	中村・新里・寒川	2010 年 10 月 18 日		
	木製品保管倉庫の水替え	2ヶ所	中村・新里・寒川	2011 年 3 月 28-31 日		
事業	内容	担当者	期間			
	農学部 100 周年記念展示室	遺物展示作業・リーフレット作成	新里・中村・寒川	2010 年 5 月 19～21 日		
	医学部発掘調査の紹介 「新病棟建設予定地の埋蔵文化財調査」	『桜ヶ丘だより』18号	中村	2010 年 7 月		
	公開講座 『南日本先史時代の生活』	「先史時代の食べもの」 「洞窟発見の縄文時代人骨」 「石器の観察からわかること」	中村・新里・寒川	2010 年 9 月 11 日		
その他	鹿児島大学構内遺跡資料を用いた報告	「鹿児島大学構内遺跡の先史時代遺物から考えるエコロジー」	新里	2010 年 9 月		
	遺物資料貸出	工学部出土球状耳飾り転用品	新里	2010 年 11 月 16 日～ 2011 年 3 月 31 日		
	遺物資料調査	農学部出土近世火打石	中村・新里・寒川	2011 年 2 月 26 日		
	陶芸教室		中村・新里・寒川	2010 年 10 月 10 日		
	土器製作		中村・寒川	2010 年 10 月 24 日, 11 月 21 日		
	土器野焼き実験		中村・寒川	2011 年 1 月 22～23 日		
事業	内容	期間				
	永山修一 「<鹿児島古散歩 43>鹿児島大学郡元団地遺跡群 1」『南日本新聞』	2011 年 2 月 13 日				
	小畑弘己・中村直子 「縄文早期の土器にコクゾウムシ痕跡」『南日本新聞』	2011 年 3 月 29 日				

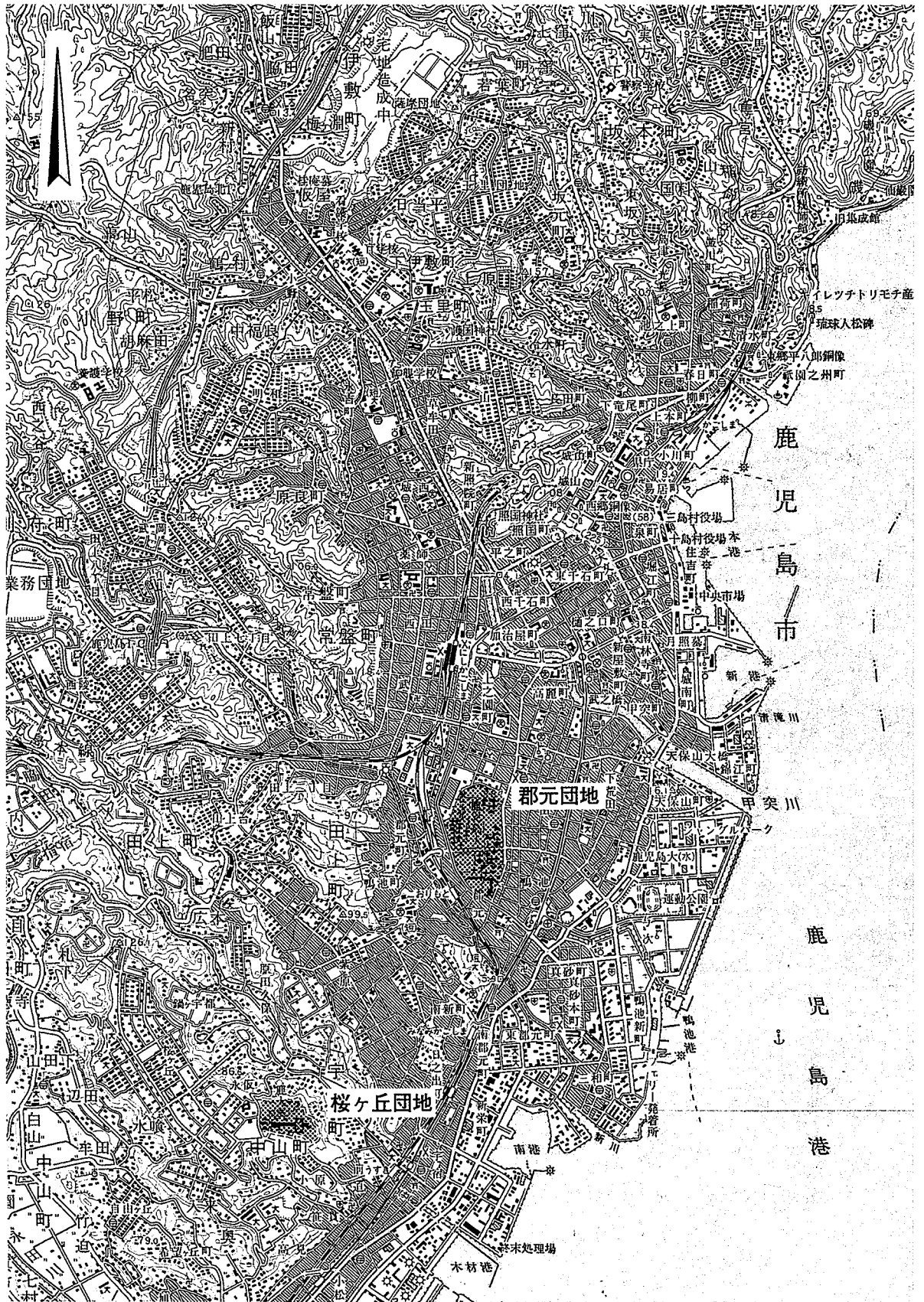


Fig. 1 鹿見島大学構内遺跡の位置 (S=1/50000)



Fig. 2 郡元団地構内図 (S=1/4000)

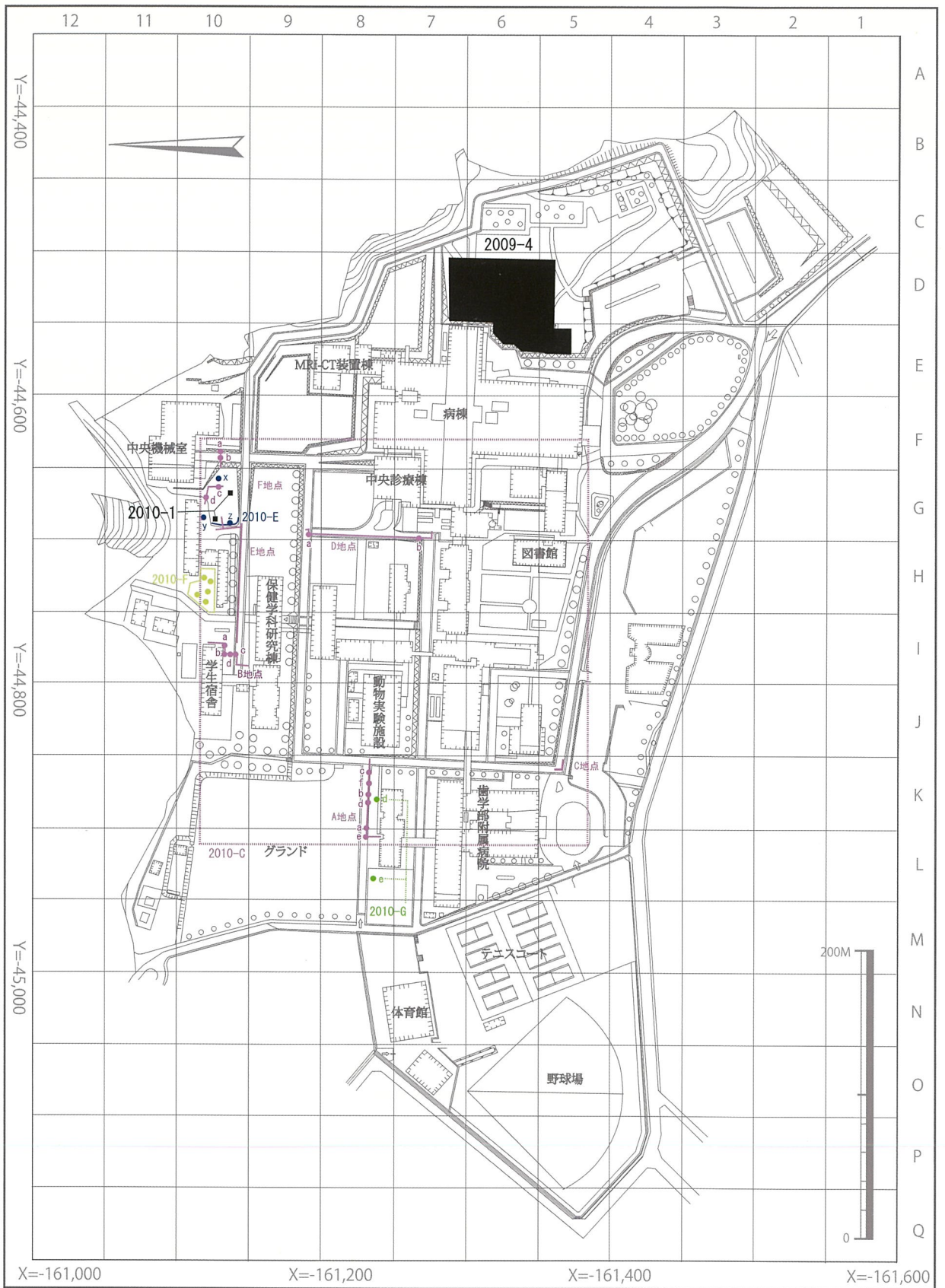
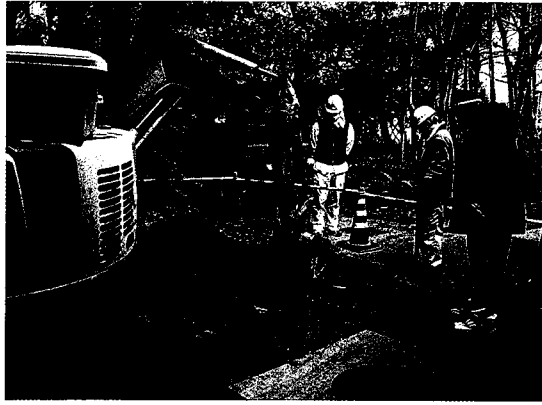


Fig. 3 桜ヶ丘団地構内図 (S=1/4000)



立会調査



発掘調査

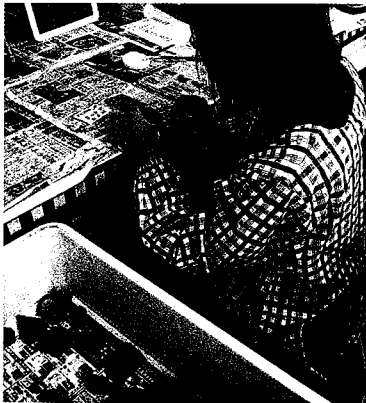


遺跡現地説明会

室内整理
作業へ



出土遺物の洗浄



注記



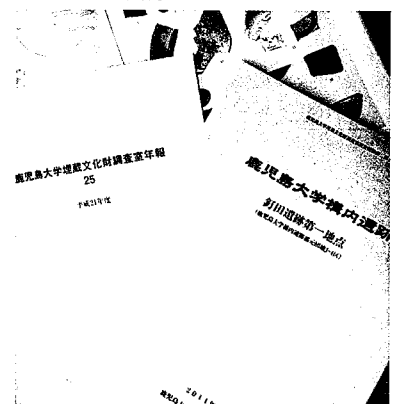
接合・復元



出土遺物の実測



実測図をデジタルトレース



報告書の執筆・編集・刊行

Fig. 4 埋蔵文化財調査室の事業に伴う業務一例

II 試掘調査

2010-1 桜ヶ丘団地G-10区（レジデントハウス建設工事）試掘調査

1. 調査にいたる経緯

鹿児島大学構内遺跡桜ヶ丘団地では、平成22(2010)年度、レジデントハウス(Fig.5)を建設する計画となった。予定地近隣では、中央機械棟建設予定地(2008-1/鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書第6集(2011)参照)などで縄文時代草創期・早期の土器などが出土しており、予定地においても同様の遺物が出土することが予想された。予定地においては、埋蔵文化財調査の費用が出せず、軽量鉄骨建物であるレジデントハウス基礎部分を表土の範囲内でおさめたい意向であった。そこで、鹿児島県・鹿児島市・鹿児島大学の協議のうえ、正確な表土の厚さを知るために、試掘調査を行うこととなった。

2. 調査体制

所在地 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号
 調査起因 レジデントハウス建設工事
 発掘主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 新田栄治
 発掘指導員 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 助教 新里貴之
 管理技士 国際文化財株式会社 川村 稔
 調査員 国際文化財株式会社 東園千輝男
 作業員 加治屋幸雄・川俣友秀・福満一典・本田史比古
 柳田昌稔・脇春教・脇満則
 発掘期間 平成22年7月20日～7月27日
 調査面積 約8㎡
 現 状 看護師寮駐車場

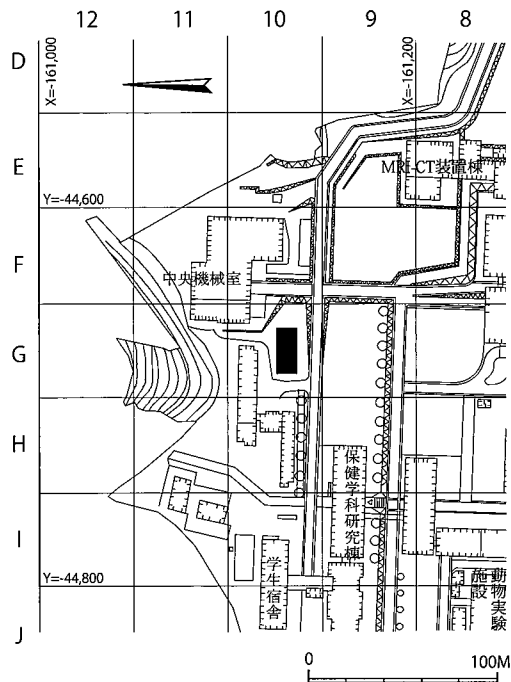


Fig. 5 調査区の位置 (S=1/4000)

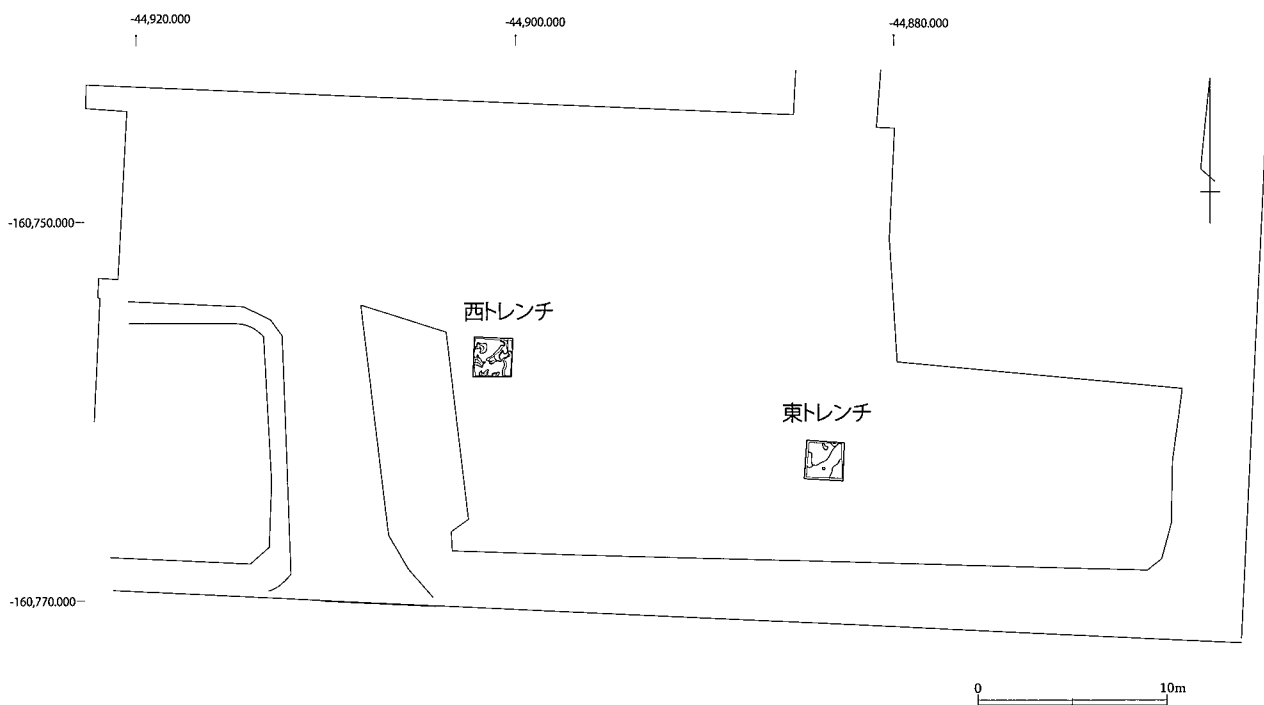


Fig. 6 調査区トレンチ配置図 (S=1/400)

3. 調査経過

レジデントハウス建設予定地の東西隅に相当する部分に、 2×2 mのトレンチを2つ設定し、東西方向にあることから、それぞれを東トレンチ・西トレンチと総称した (Fig.6)。7月20日より、舗装部分をカットイングし、表土を重機で掘削してから、2層目より手掘りで調査を進めた。調査にあたっては、各層の上層ごとに写真撮影を行い、細かい遺物は一括で取り上げ、大きめの遺物は光波測量器によって座標を記録し取り上げた。トレンチについては、壁面を垂直に掘り下げることから、2 m以上は掘り下げない方針とした。

西トレンチについては深さ約 1.5 mで薩摩火山灰層の上面に達したので、樹痕と思われる縄文時代早期層の落ち込みを掘り下げ、その凹凸を測量してから壁面の測量を行い、調査を終了した。東トレンチについては、深さ 2 mで縄文早期層が大部分残る形で掘り下げ中止としたが、トレンチ底面では一部に薩摩火山灰層が露出し、層位横転の様相を示していたため、その土層ライン、壁面を測量した。27日には、トレンチ位置の全景写真を撮影し、トレンチを埋め戻してアスファルト舗装を行って、調査を終了した。

4. 基本層序

東西トレンチともに基本層序はほぼ類似するが、東トレンチに数枚層が多い。また、土層の深さをみても、旧地形は東トレンチ側に傾斜していると想定される。

<東トレンチ土層>

1層：攪乱

2a層：黒褐色 10YR3/2 砂質シルト層。0.5～1 cm 大のオレンジ色パミス交じりで強く締まる。

2b層：黒褐色 10YR2/2シルト層。0.5cm大のパミス混、締まりは緩い。縄文時代晩期～弥生時代 遺物包含層。

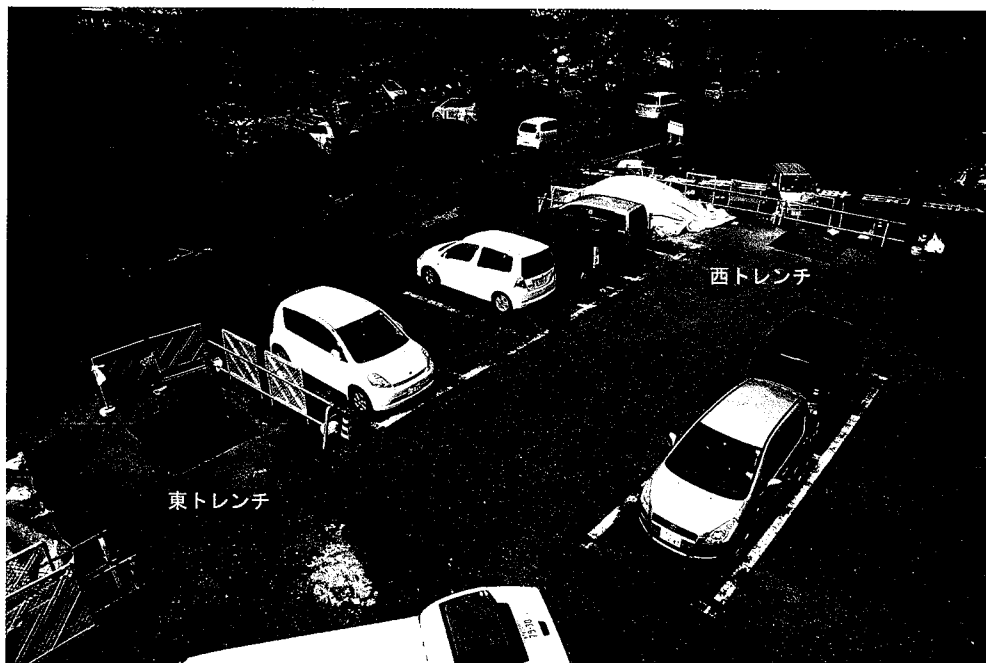
3a層：褐色 10YR4/4シルト層。0.5～2 cm 大のオレンジ色パミス混、締まりは良い。アカホヤ火山灰二次堆積土。遺物包含層

A層：暗褐色 10YR3/4 砂質シルト層。0.5～2 cm 大のオレンジ色パミス混じりで締まりは良い。3+4層。

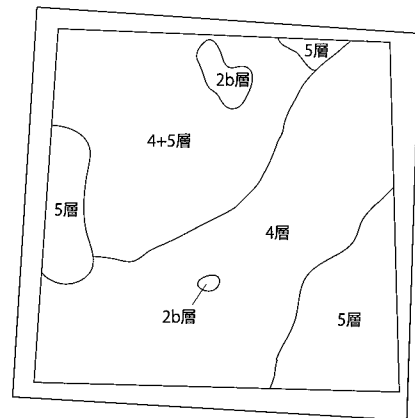
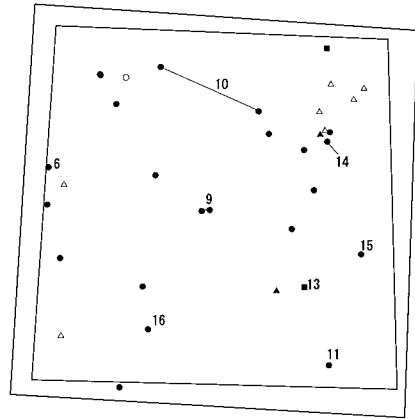
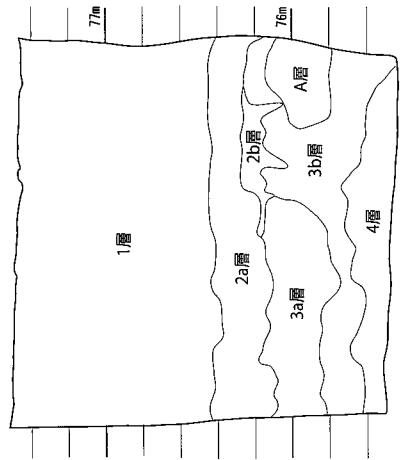
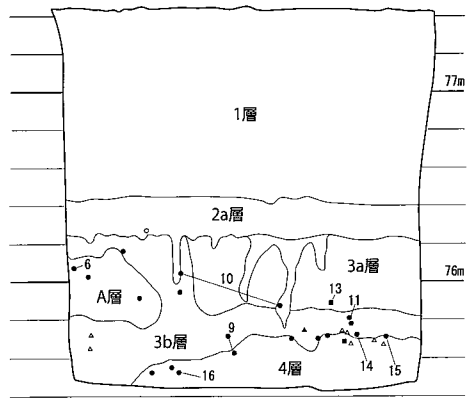
3b層：黒褐色 10YR2/3 砂質シルト層。0.5～2cm 大のオレンジ色パミス混じりで締まりは良い。

4層：黒褐色 10YR2/2 砂質シルト層。0.5～5cm 大のオレンジ色パミス多く含む。縄文時代早期遺物包含層。

5層：褐色 7.5YR4/6 パミスと粗砂。薩摩火山灰層上部。



PL.1 全景 (北東より)



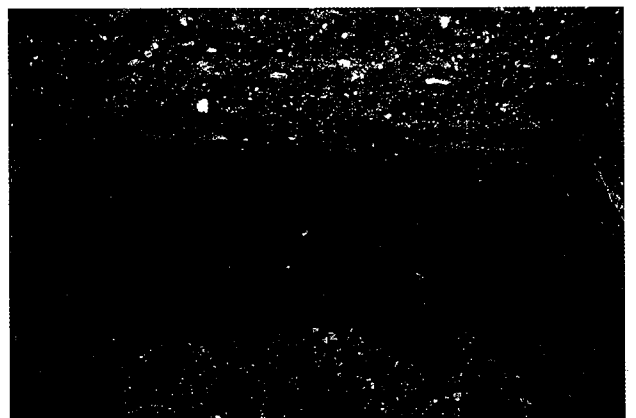
2m掘り下げ状況

- 縄文早期土器
- その他土器, 陶磁器類
- ▲ 礫(被熱) △ 礫
- 剥片

Fig. 7 東トレンチ層位断面・平面図 (S=1/40)

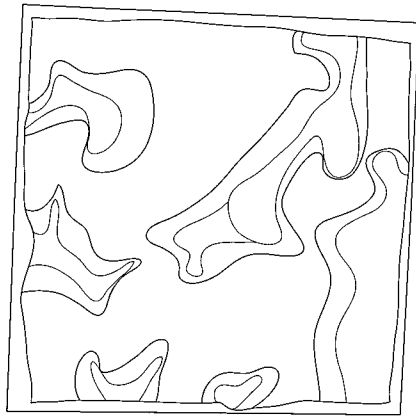


東トレンチ西壁

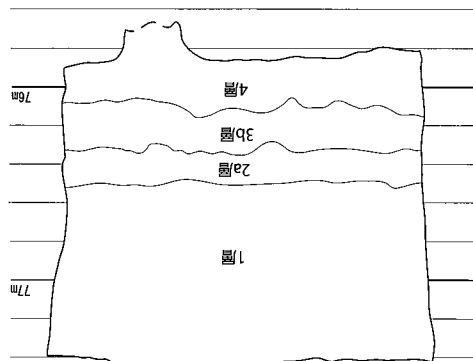
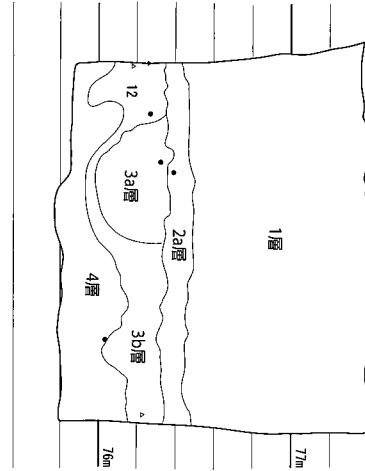
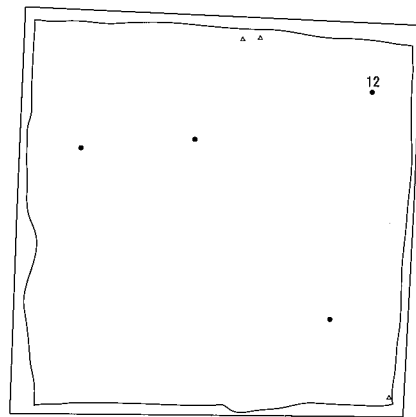


東トレンチ北壁

PL. 2 東トレンチ土層



薩摩火山灰層検出状況

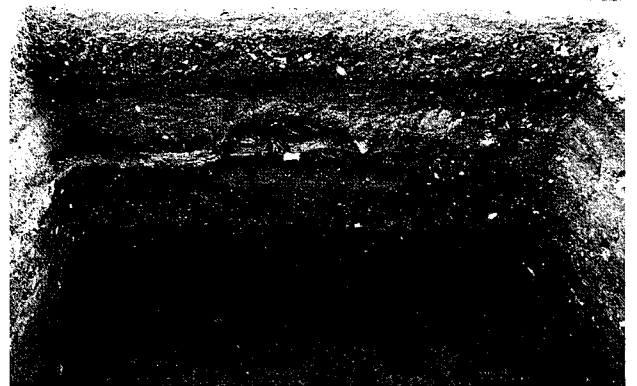


- 縄文早期土器
- その他土器, 陶磁器類
- ▲ 礫(被熱) △ 礫
- 剥片

Fig. 8 西トレンチ層位断面・平面図

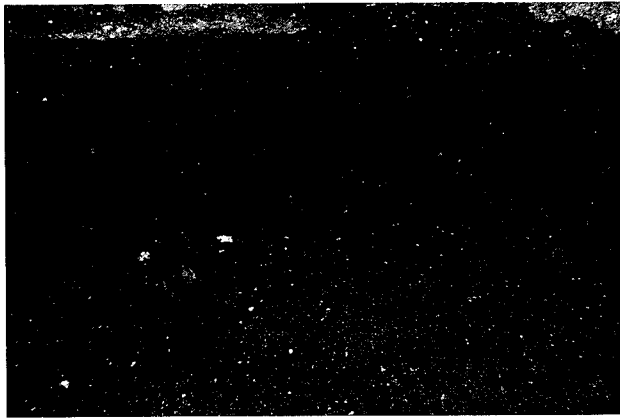


西トレンチ東壁



西トレンチ南壁

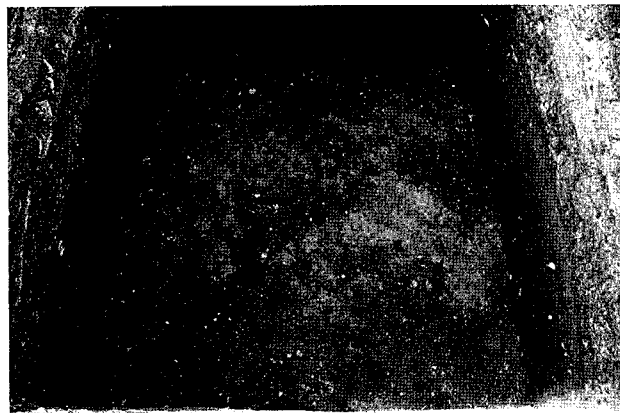
PL. 3 西トレンチ土層



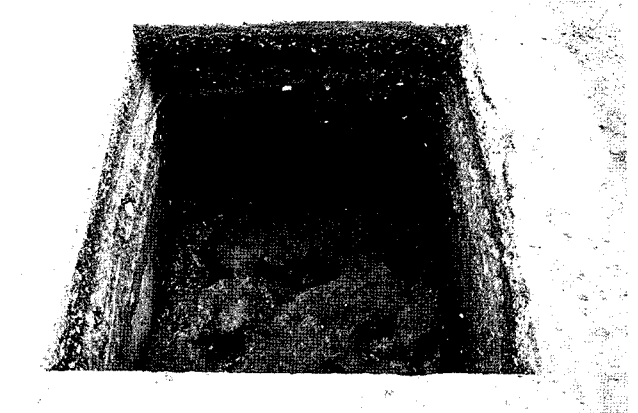
東トレンチ東壁 3～4層遺物出土状況



東トレンチ 2m 掘り下げ状況



西トレンチ 5層検出



西トレンチ完掘

PL. 4 各トレンチ掘削状況

5. 層位横転

東西トレンチともに遺構は検出されず、部分的に層位横転が確認された。層位横転は、西トレンチでは縄文時代早期層内の深さにおさまっているようにみえる。一方東トレンチの横転は、薩摩火山灰を上位の縄文時代早期層まで持ち上げるほどの根をもつ大木によるものであった可能性がある。

6. 出土遺物 (Fig. 9 PL. 5/No. 1～16)

西トレンチでは1層より土器小片、2層では陶磁器と貝殻条痕文の胴部片、3層から貝殻条痕文土器片が出土しているが、遺物は東トレンチの方が多く出土している。東トレンチは2層より陶磁器片(香炉など)や土師器のほか貝殻条痕文土器片、3層より貝殻条痕文土器片や被熱礫1ヶ点、4層より貝殻条痕文土器片のほか拳大の玉髓系素材礫1点、安山岩製剥片1点が出土している。

1・2層出土遺物はNo. 1～5である。1は土瓶の底部と思われる。2は内面に指頭痕があり、表面には横方向の沈線模様がみられる。型押しによる何らの土人形片と考えられる。3は肥前磁器の碗と思われる。4・5は摩滅しているが、口唇部に刻みと貝殻腹縁による刺突文が施される。

3層出土遺物はNo. 6～13であり、12のみ西トレンチより出土している。6～8は口縁部に貝殻腹縁の刺突文が施される縄文早期土器であるが、7は口縁部に刻みと内面に稜が認められ岩本式に類似する。6・8の口縁部と9～12の底部も前平式を始めとする早期前半貝殻条痕文土器に該当する。9は円筒土器の底部であるが、底部内面に貝殻腹縁による調整が放射状に認められ、立ち上がり部分より内面が黒色化している。13は安山岩の薄手の剥片を素材とし、上下端部が丸く潰れている。

4層出土遺物はNo. 14～16である。15は岩本式土器であり内面に明瞭な稜が認められ、口縁部に斜位の

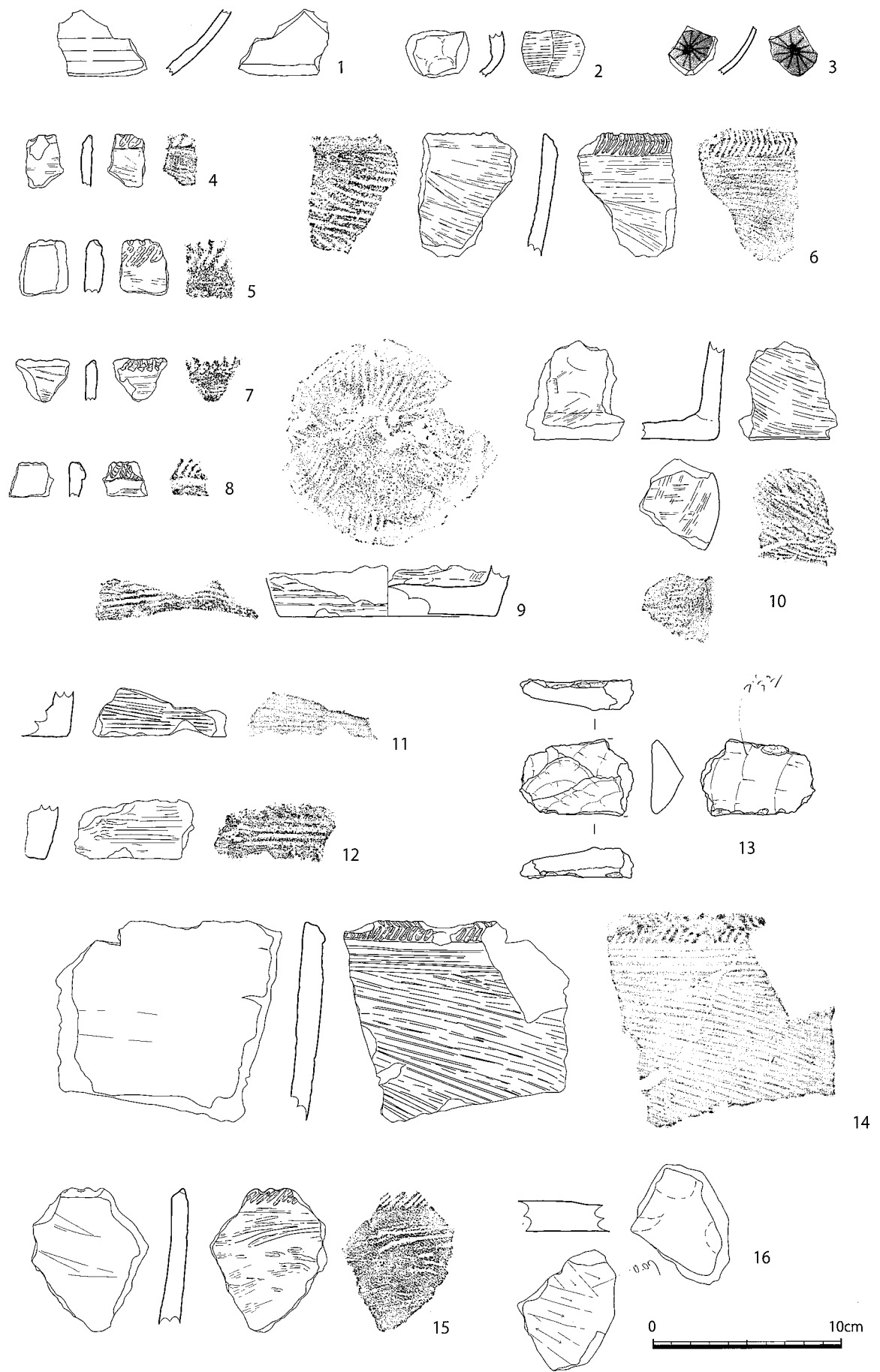
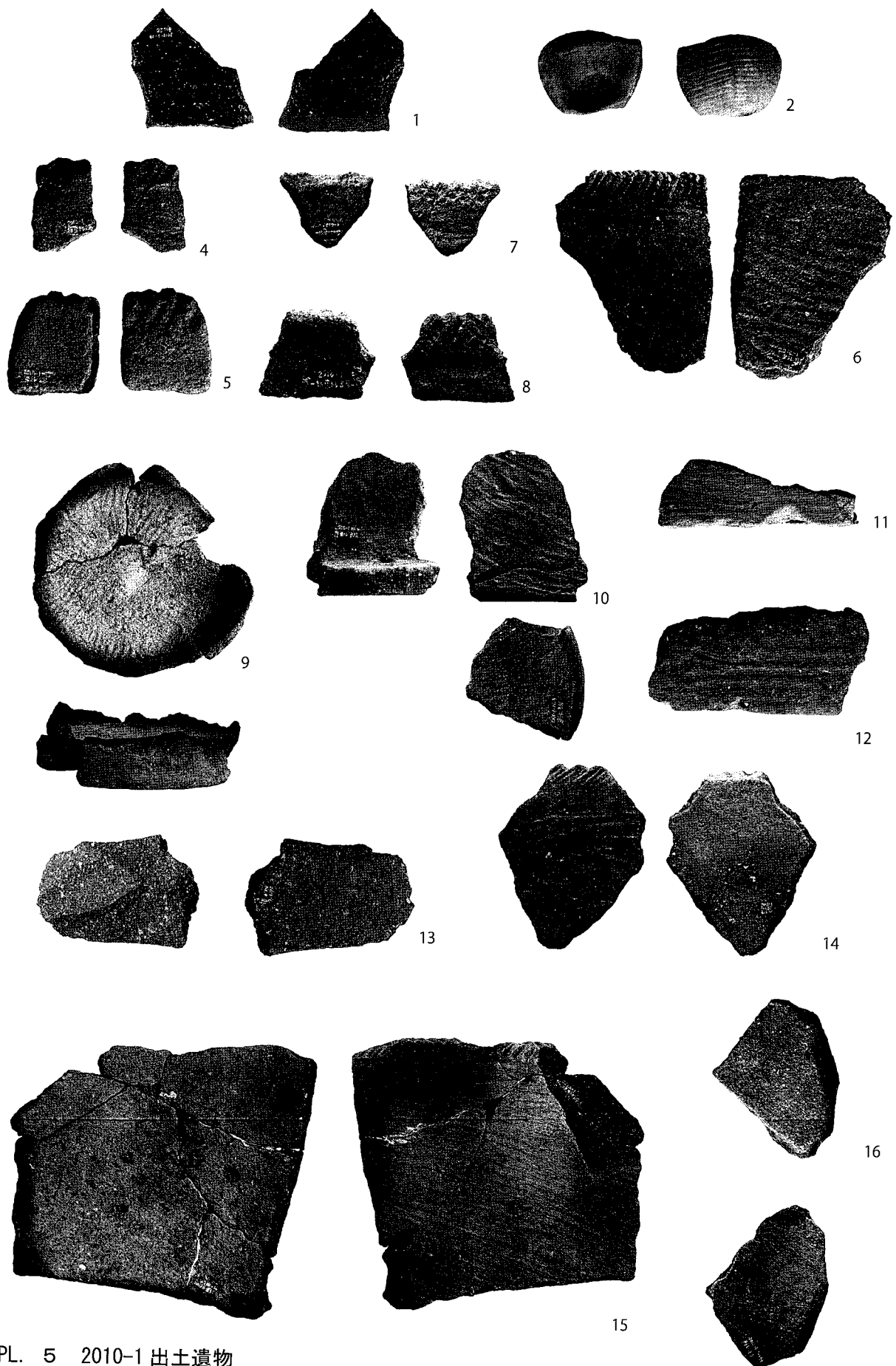


Fig. 9 2010-1 出土遺物



PL. 5 2010-1 出土遺物

沈線、口唇部に刻みが確認出来る。胴部は貝殻条痕をナデたような調整がみられる。14 は前平式の口縁部であり、斜位の貝殻刺突文を2列に施している。16 は底部であり、外面はナデ、内面側には指頭痕が認められる。

7. まとめ

今回の調査では、東西トレンチを比較すると旧地形は東側に傾斜することが判明し、台地縁辺部に対応すると思われる東トレンチに遺物が多く出土する傾向があった。レジデントハウスは軽量鉄骨のため掘削深度は攪乱層範囲内となったが、同地点の遺物の包蔵状況は良好であり、工事の際には慎重な対応が必要である。

Tab. 2 2010-1 出土遺物観察表

Fig.	No.	出土地点	層位	種別	器種	部位	色調	調整	備考
	1	東トレンチ	2	陶器(苗代川)	土瓶	底部	釉:灰褐色 7.5YR4/2 素地:灰褐色 7.5YR5/2		18世紀後半
	2	東トレンチ	2	土製品			外面:にぶい黄橙 10YR7/4 内面:明黄褐 10YR7/6	内面:ユビオサエ	俵形か
	3	東トレンチ	2	磁器(肥前)	碗	胴部	釉:灰白 N8/ 文様:青灰色		
	4	東トレンチ	2	縄文土器	深鉢	口縁部	外面:灰黄褐 10YR5/2 内面:にぶい黄褐 10YR5/3	外面:貝殻条痕	
	5	東トレンチ	2	縄文土器	深鉢	口縁部	外面:にぶい黄橙 YR7/4 内面:浅黄 2.5Y7/4	内面:ナデ	
	6	東トレンチ	3	縄文土器	深鉢	口縁部	外面:にぶい黄灰 10YR6/4	内外面:貝殻条痕, ナデ	外面スス附着
	7	東トレンチ	3	縄文土器	深鉢	口縁部	外面:橙 7.5YR7/6 内面:にぶい黄橙 10YR7/4	外面:貝殻条痕, ナデ 内面:貝殻条痕	
9	8	東トレンチ	3	縄文土器	深鉢	口縁部	外面:にぶい黄橙 10YR7/4 内面:明黄褐 10YR6/6	外面:貝殻条痕	
	9	東トレンチ	3	縄文土器	深鉢	底部	外面:にぶい黄橙 YR6/4 内面:浅黄橙 10YR8/3	内外面:貝殻条痕 底部外面ナデ	内面立ち上がり部 コゲ附着
	10	東トレンチ	3	縄文土器	深鉢	底部	外面:橙 5YR6/6 内面:褐灰 7.5YR4/1 底面:橙 5YR6/6	外面:貝殻条痕(\\), ナデ 内面:貝殻条痕, ナデ	
	11	東トレンチ	3	縄文土器	深鉢	底部	外面:橙 5YR7/6 内面:橙 5YR7/6	外面:貝殻条痕(-) 内面:貝殻条痕	
	12	西トレンチ	3	縄文土器	深鉢	底部	外面:明赤褐 5YR5/6	外面:貝殻条痕(-)	
	13	東トレンチ	3	石器	剥片		-		安山岩製,刃部摩滅
	14	東トレンチ	4	縄文土器	深鉢	口縁部	外面:にぶい黄橙 10YR7/4 内面:淡黄 2.5Y8/4	外面:貝殻条痕→ナデ 内面:ナデ	
	15	東トレンチ	4	縄文土器	深鉢	口縁部	外面:褐灰 10YR4/1 内面:にぶい黄褐 10YR5/4	外面:貝殻条痕→ナデ(-)(/) 内面:ナデ	
	16	東トレンチ	4	縄文土器	深鉢	底部	外面:にぶい黄 2.5Y6/3 内面:浅黄 2.5Y7/3	底部外面:ナデ 内面:ユビオサエ	

2010-2 桜ヶ丘D～F-3・4区（病棟新営に伴う仮設道路・駐車場工事）試掘調査

1. 調査にいたる経緯

鹿児島大学構内遺跡桜ヶ丘団地では、桜ヶ丘病棟の新営工事が2011年度より予定されることとなった。その際、建設予定地に大型車両を導入する進路を患者・一般駐車場に設置し、またそのために縮小される駐車場はロータリーを形成する緑地帯を造成して設置することが計画された（Fig.10）。工事予定地に北接する病棟の建設予定地（2009-4）では、後期旧石器時代やその時代の陥穴、縄文時代早期の陥穴などが出土・検出されており、東南部（2007-3）では縄文時代早期の土器や石鏃などが出土している。このため工事予定地においても同様の遺物が出土することが予想された。工事予定地においては、遺物包含層が存在するか不明であったため、鹿児島県・市・鹿児島大学で協議のうえ、正確な遺物包含層の厚さを知るために試掘調査を行うこととなった。

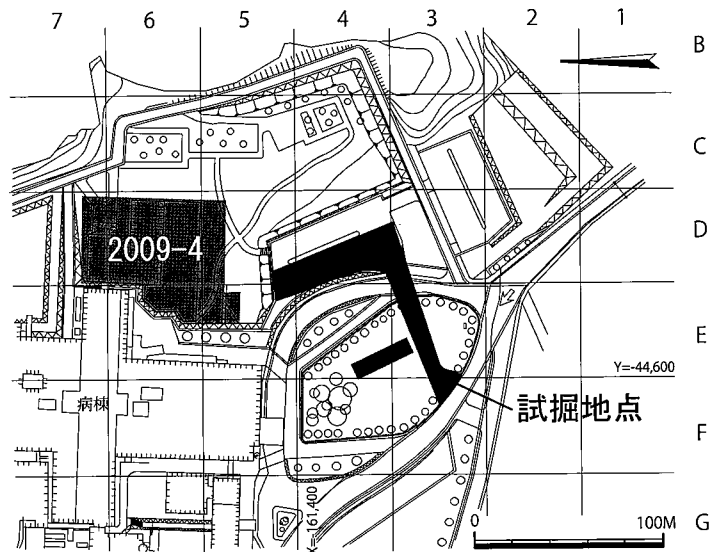


Fig. 10 調査区の位置
(1 / 4000)

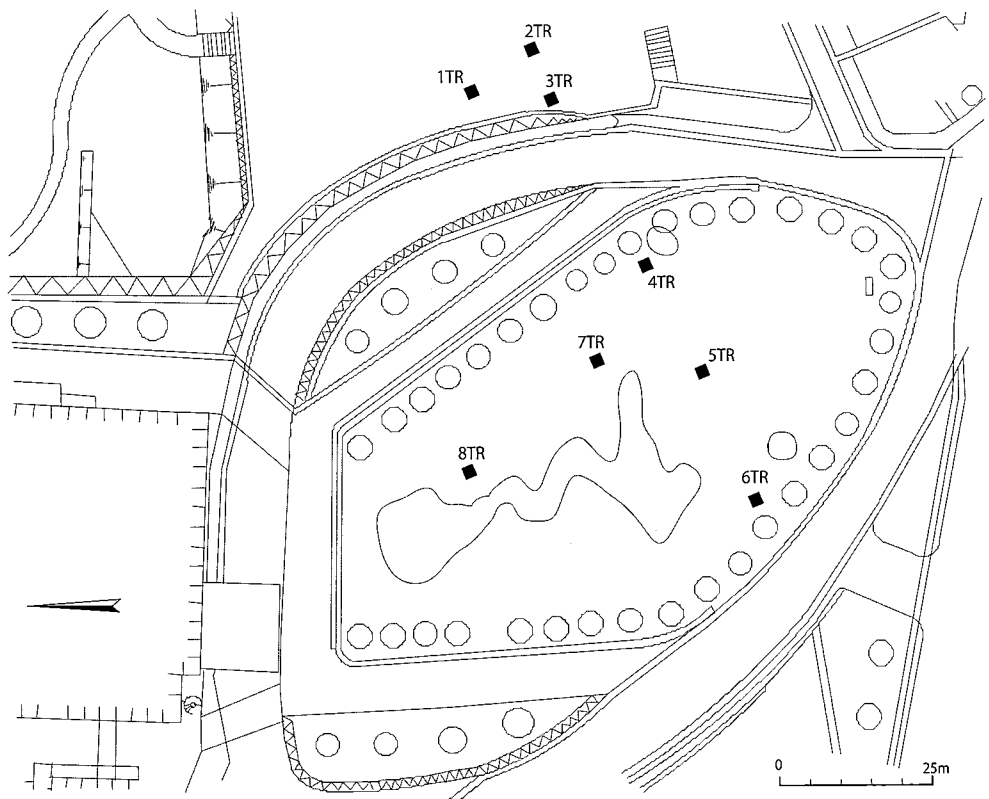


Fig. 11 トレンチ配置

2. 調査体制・期間・規模

所在地 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号

調査起因 桜ヶ丘病棟新営に伴う仮設道路・駐車場工事

発掘主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 室長 新田栄治

発掘指導員 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 助教 新里貴之

作業員 石谷美智子・加治屋幸雄・末吉サチ子・末吉幸子・末吉つや子・脇春教・脇満則

発掘期間 平成23年3月22日～24日

調査面積 32㎡

現状 駐車場・緑地帯

3. 調査経過

患者・一般用駐車場のスロープ設置部分に、2×2mのトレンチを3ヶ所設定し（1～3TR）、重機による掘削を行った。また、緑地帯には2×2mトレンチを5ヶ所（4～8TR）設定し、全て人力による掘り下げを行った（Fig.11）。

3月22日より、駐車場舗装部分をカッティングし、表土を重機で掘削する予定であったが、スロープにする最深部の1.5mまで一部を重機で掘り下げても遺物包含層は確認できず、攪乱層であった。緑地帯は進入道路部分と北半部を約20cm程度すきとって駐車場を設置する予定であったので、30cmは掘り下げたが、4～7TRは造成土による埋め立て地である

と判断された。8TRは2層目で造成土ではないいわゆるピンクシラスを確認し、遺物包含層が確認できず掘削作業を終了した。調査に当たっては、平面や壁面の写真撮影を行い、遺物は表土・攪乱層内からの出土のみであっ

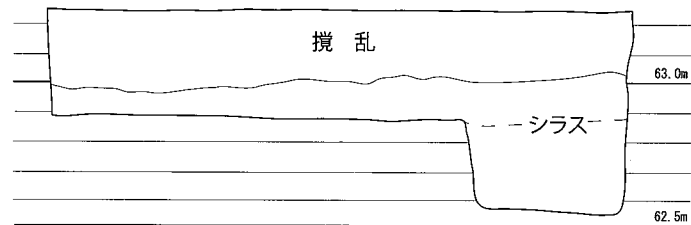


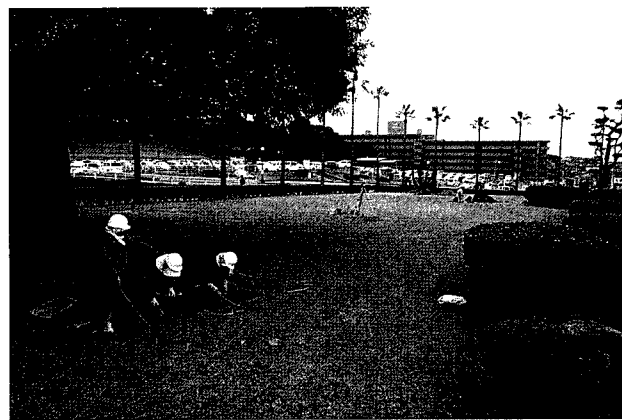
Fig. 12 8トレンチ北壁土層断面図



PL. 6 トレンチ配置遠景（東より）



4～7トレンチ配置 (東より)



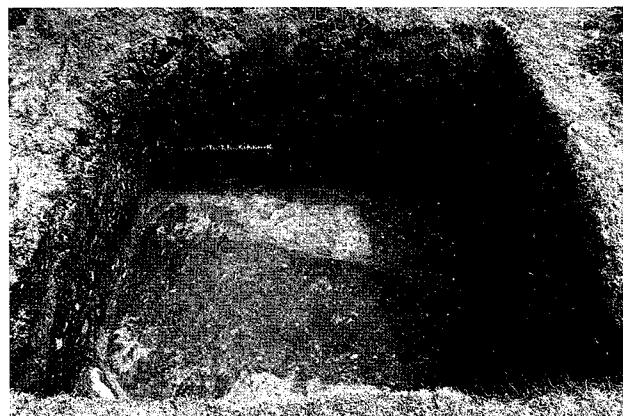
7・8トレンチ (北より)



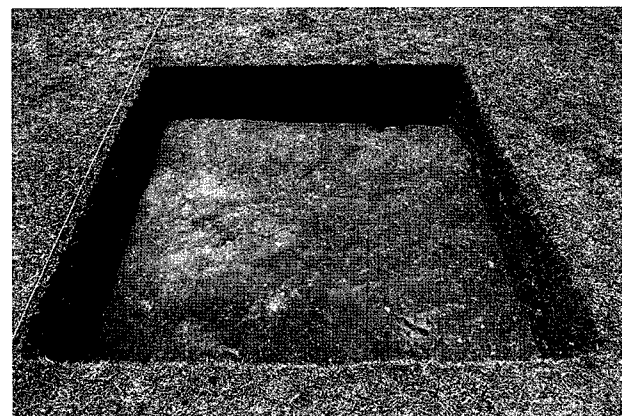
3トレンチ調査風景 (西より)



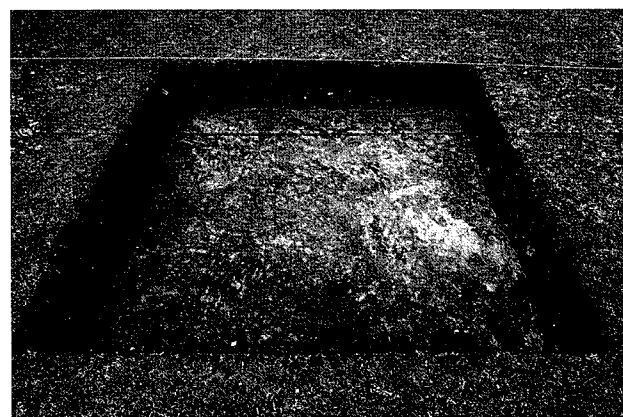
2トレンチ南壁



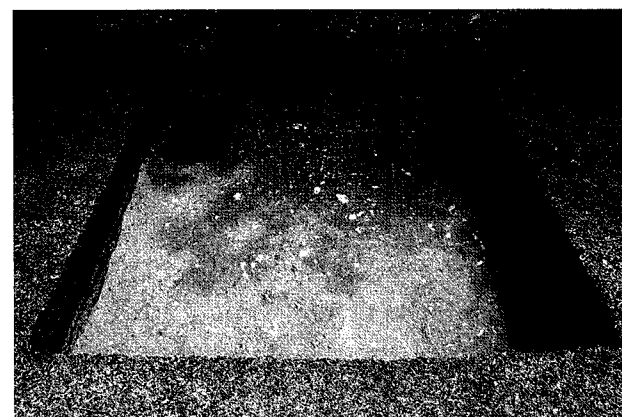
3トレンチ完掘 (西より)



5トレンチ完掘 (東より)



6トレンチ完掘 (南より)



8トレンチ完掘 (西より)

PL. 7 各トレンチ地点・掘削状況

たので一括で取り上げた。全て光波測量器で測量し、8TRのみトレンチについては北・東壁面を測量した。24日にはトレンチ位置の全景写真を撮影し、調査を終了した。

4. 各トレンチと層位

ほとんどのトレンチが表土・攪乱層であった。8TRのみ2層目に入戸火砕流を確認できたのみである。

1層 表土・攪乱

2層 入戸火砕流 (AT), 橙色 2.5YR7/6 細砂とにぶい黄橙色 10YR7/2 細砂の互層。0.5 ~ 10cm 大の白色パミス混じり, 堅く締まる。

5. 遺物

遺物は表土・攪乱層で得られたのみである。縄文時代早期前半の前平式のほか, 縄文時代晚期土器, 弥生~古墳時代の土器小片, 近現代の陶磁器類などの小片が1・2TRを除く各トレンチから得られた。19は馬具である尻がいであり, 外面は施釉されている。18は縦方向の貝殻腹縁による刺突文が認められ, 前平式口縁部付近と思われる。

6. まとめ

今回の調査では, 駐車場地点ではかなりの深さで攪乱層が及ぶことが分かった。病棟建設予定地(2009-4)の南端部は, 北から南方位で深く傾斜する谷地形となっており, これが旧地形を表すならば, 駐車場地点は深い谷地を埋め立てて平地を形成しているものと判断される。緑地帯は深い地点まで掘削するものではなかったため判断は難しいが, 緑地帯の北側に位置する8TRのみで入戸火砕流が確認されたことから, 北側ではかなりの地形の掘削があったことは判断できた。

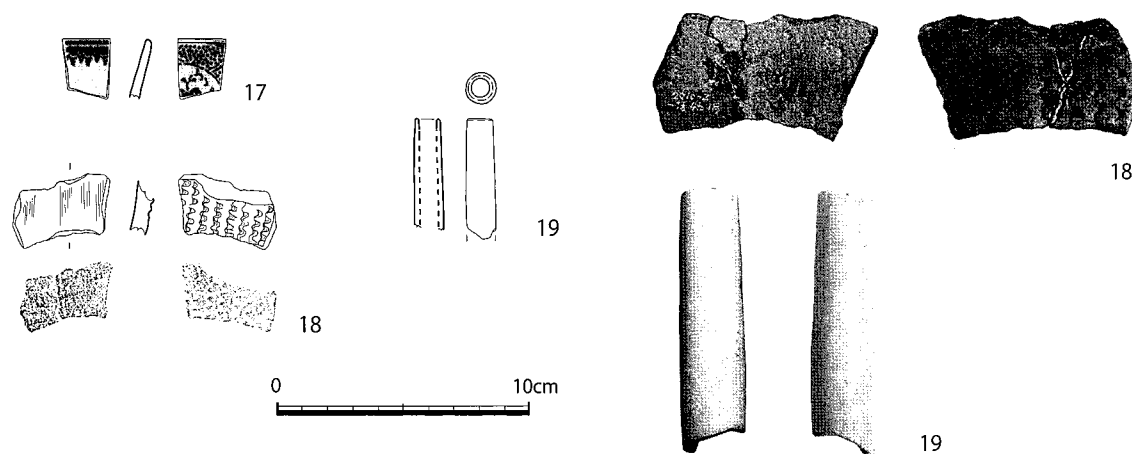


Fig. 13 出土遺物

PL. 8 出土遺物

Tab. 3 2010-2 出土遺物観察表

Fig.	No	出土地点	層位	種別	器種	部位	色調	調整	備考
	17	4トレンチ	1	磁器		口縁部	釉: 灰白色 素地: 灰白色		
13	18	4トレンチ	1	縄文土器	深鉢	胴部	外面: にぶい黄橙 10YR6/3 内面: にぶい黄橙 10YR7/4	外面: 貝殻刺突 内面: ナデ	
	19	5トレンチ	1	磁器			釉: 灰白色 素地: 灰白色		馬の尻がい

Ⅲ 立会調査

平成 22 (2010) 年度は、郡元団地内で 6 件、桜ヶ丘団地内で 4 件、事業数としては合計 9 件の立会調査を実施した。国立大学法人化後、調査は鹿児島市教育委員会が担当することになっているが、ガス漏れや漏水などの緊急時や双方の日程の都合のつかない場合は、埋蔵文化財調査室単独で調査を行っている。以下にその概要を記す。

2010-A 郡元団地 L・K-11, L-7, F-7 区 (学内環境改善工事)

調査地点 郡元団地 L・K-11, L-7, F-7 区

調査期間 2010 年 4 月 12 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 有川孝行

鹿児島大学埋蔵文化財調査室 寒川朋枝

郡元キャンパス内において、サイン (表示板) 設置工事のため 4 ヶ所の調査を行った。a トレンチは L-11 区で 65cm 深度の掘削を行い、地表下 40cm より水田層を確認した。b トレンチは K-11 区で、70cm 深度まで掘削したが攪乱層であった。c トレンチは L-7 区で 80cm 深度の掘削を行い、地表下 60cm より水田層を確認した。d トレンチは F-7 区で、60cm 掘り下げを行ったが遺物包含層は確認されなかった。

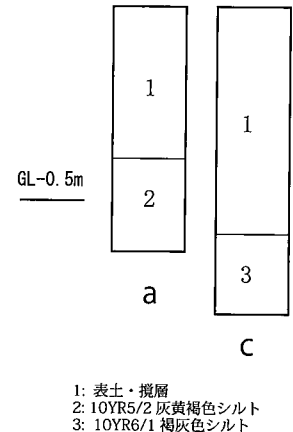


Fig. 14 2010-A 土層柱状図

2010-B 郡元団地 J-11・12 区 (工学部管理棟改修工事)

調査地点 郡元団地 J-11・12 区

調査期間 2010 年 6 月 28 日, 7 月 5 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 藤井大祐

鹿児島大学埋蔵文化財調査室 新里貴之

応用化学工学科 1 号棟において、実験排水モニター槽の移動、設置工事に伴う配管掘削部 6 ヶ所 (a, c~g トレンチ) と、外灯設置工事のため 1 ヶ所 (b トレンチ) の調査を行った。a トレンチは、地表下 1m ほど掘削を行ったが、攪乱層であった。その他各地点の攪乱層下位は、水田層と考えられる。b トレンチ 4 層より土器が 1 点出土しているが、時期は不明である。c トレンチ 5 層内には河川氾濫層が認められる。g

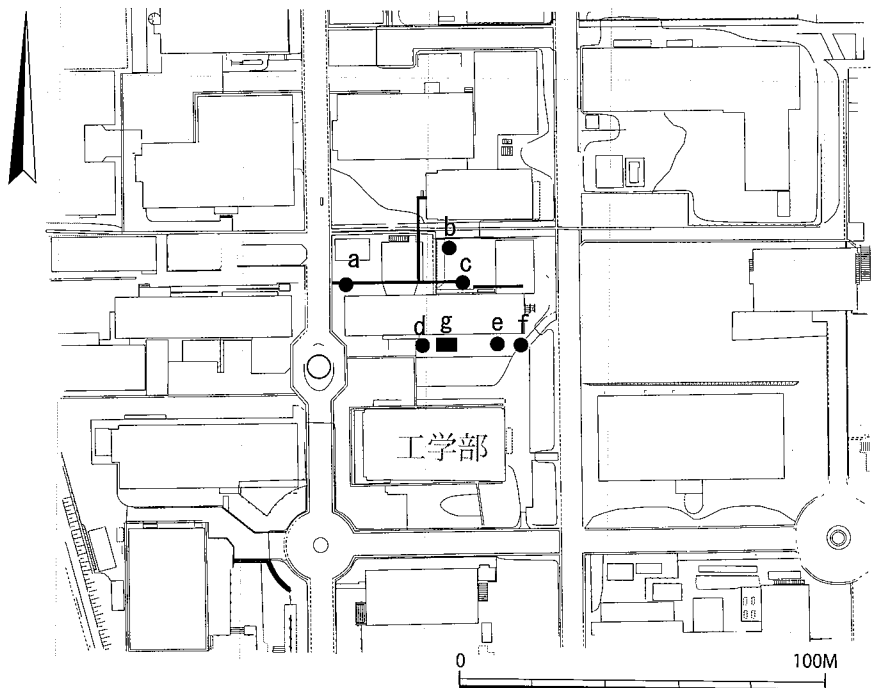


Fig. 15 2010-B 立会調査地点

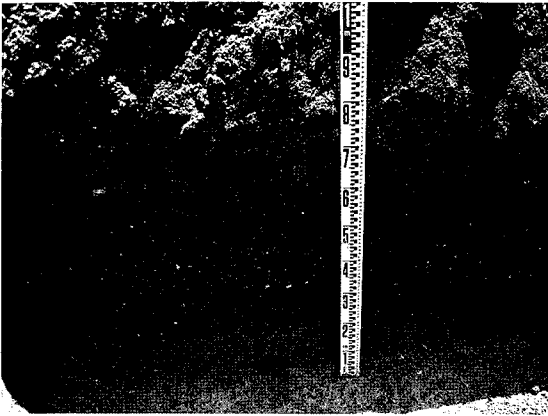
トレンチは、モニター槽除去後の土層観察 (南壁) を行った。遺物の出土はみられないが、6 層上面より検出された深さ約 55cm の 6 層を埋土とするピットが認められた。その性格は不明である。12 層は泥炭層である。



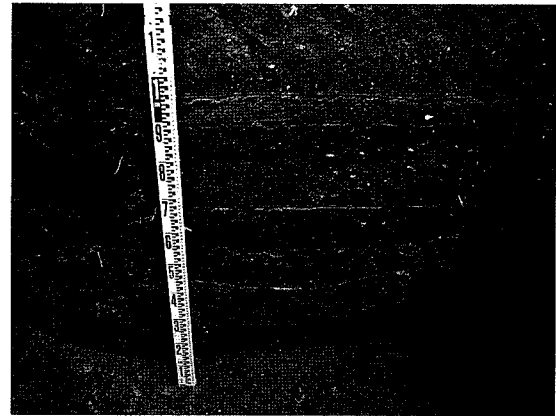
2010-B b トレンチ掘削状況



2010-B b トレンチ土層



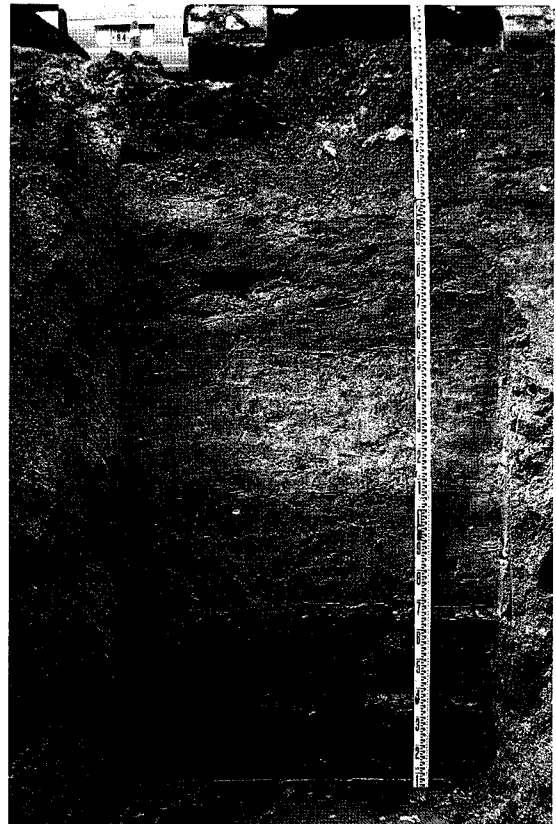
2010-B d トレンチ土層



2010-B f トレンチ土層



2010-B e トレンチ土層



2010-B g トレンチ土層

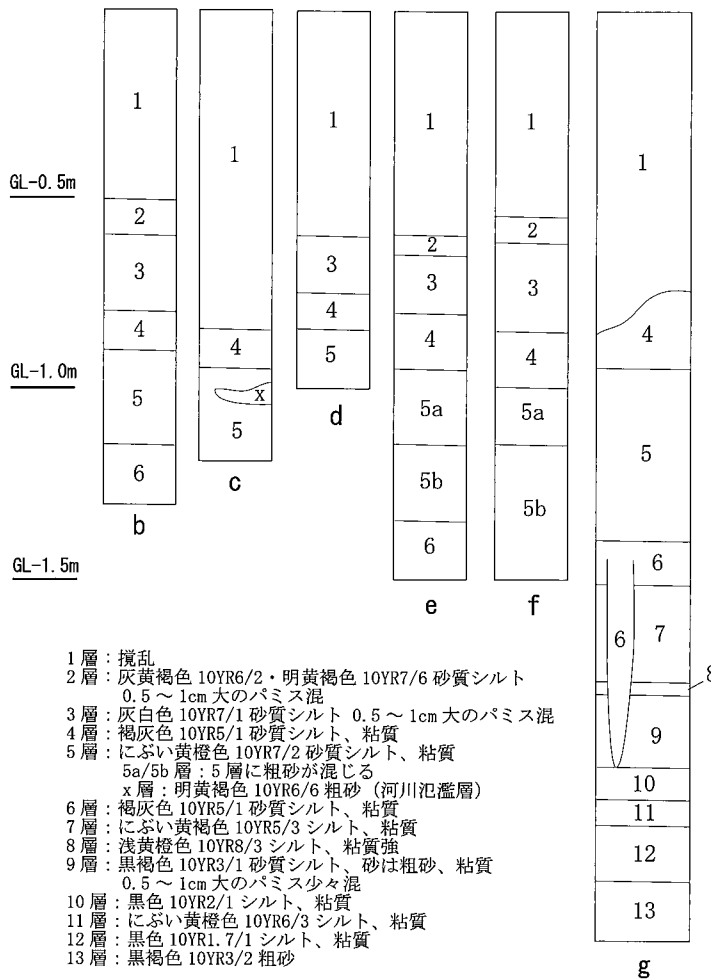


Fig. 16 2010-B 土層柱状図

2010-C 桜ヶ丘団地F～L-5～10区
 （基幹整備・ガス管改修工事）
 調査地点 桜ヶ丘団地F～L-5～10区
 調査期間 2010年8月25日（A・B・D
 地点）、8月30・31日（A地点）、
 9月21日（B地点）
 2012年2月14～16、21日
 （E地点）、2月24日（F地点）
 調査担当 鹿児島市教育委員会
 佐々木幸男、上村俊洋、
 藤井大祐
 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
 新里貴之
 篠原美智子、福永美保子、
 濱田綾子、東友子

桜ヶ丘キャンパス構内において、ガス管改修工事に伴い、A～F地点の6ヶ所が掘削されることになった。C地点については、旧地形が南側へ深く傾斜していることから慎重工事にて対応することとなり、A・B・D～F地点の5ヶ所の立会調査を行った。A・B・D地点は2010年8・9月に、E・F地点は2011年2月に調査が行われた。

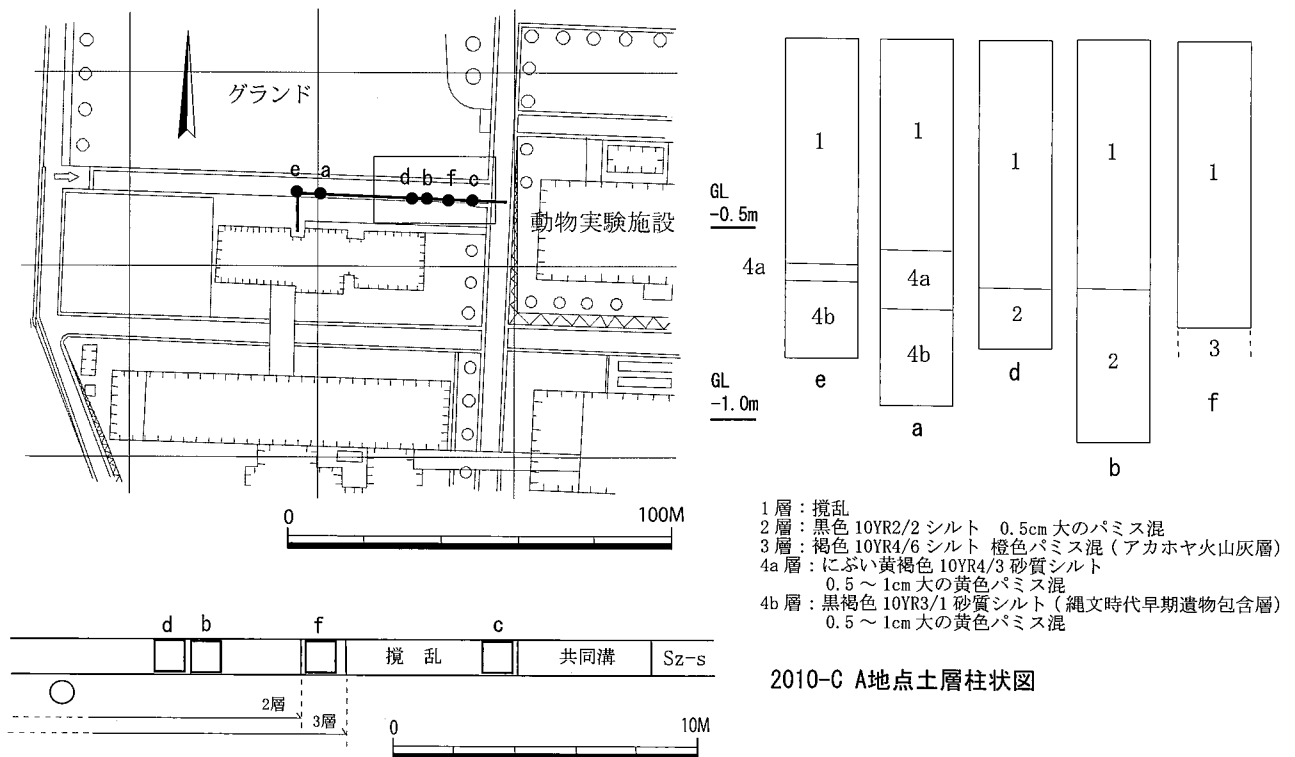


Fig. 17 2010-C A地点トレンチ配置図・東側掘削部平面図、土層柱状図

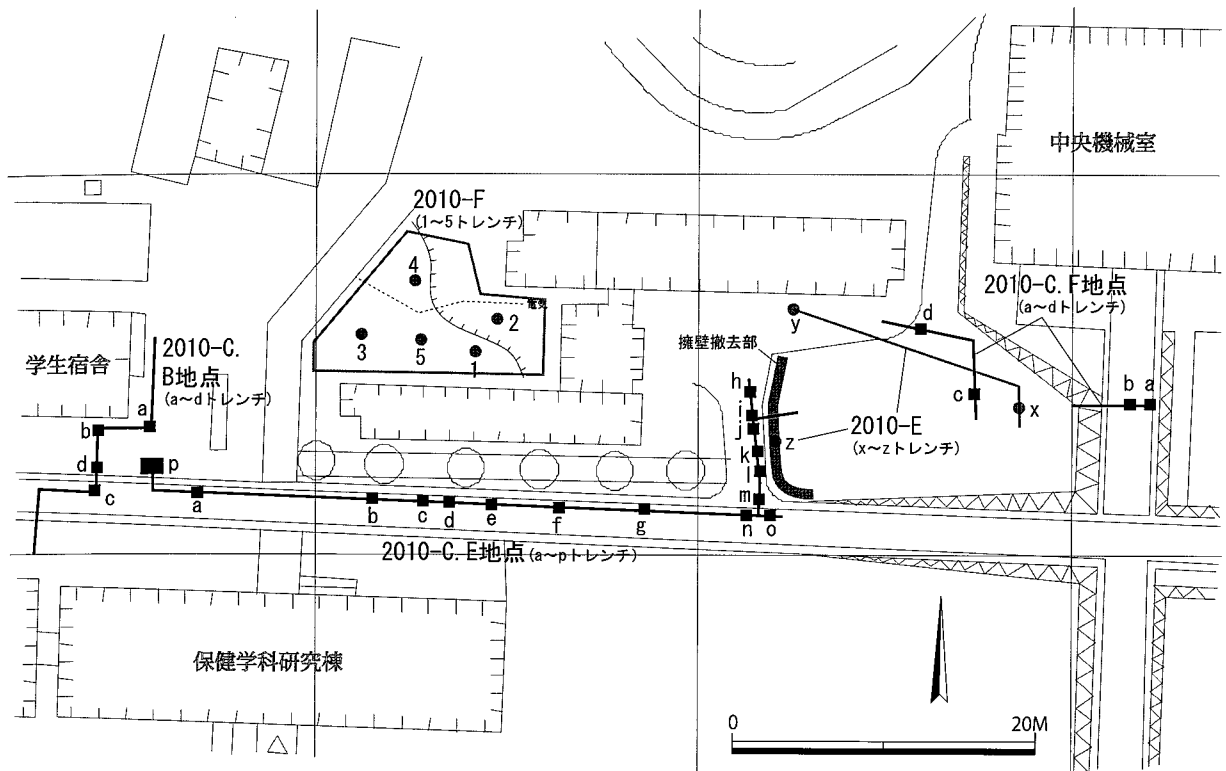


Fig. 18 2010-C, B, E, F 地点, 2010-E, F トレンチ配置図

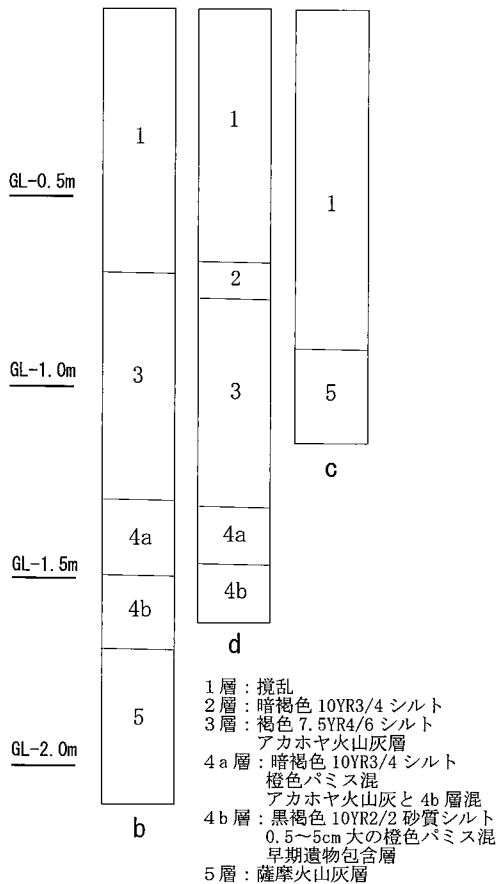


Fig. 19 2010-C, B 地点 土層柱状図

A 地点は西側の a・e トレンチでは地表下 40cm でアカホヤ火山灰と縄文早期遺物包含層が確認でき、東よりの b・d トレンチでは弥生時代遺物包含層が認められ、遺物包含層は東側に向かい傾斜している。そして、東側 c トレンチでは 110cm の深さまで攪乱層となっており、東側に向かうにつれ攪乱層も深くなっている。b・d・e・f トレンチのプライマリーな層より土器小片が出土している。20 は弥生土器の口縁部、21 はミガキが認められる底部片である。

B 地点は、2010 年 8 月 25 日に a~c トレンチ、2010 年 9 月 21 日に d トレンチを掘削した。a トレンチは 92cm の深さで攪乱であった。b トレンチ地表下 70cm でアカホヤ二次堆積層がみられ、土器小片が 1 点出土している。c トレンチでは地表下 90cm の深さで薩摩火山灰層を確認した。d トレンチでは地表下約 70cm で遺物包含層が確認され、3・5 層より遺物が出土しており、3 層は突帯をもつもの (22)、3・5 層より貝殻条痕文土器片 (23・24) などがみられる。

D 地点では、下部に共同溝があり、a トレンチで 88cm、b トレンチで 60cm の深さで攪乱層であった。

E 地点では、東西方向 a~g トレンチでは、地表下約 40cm でプライマリーな層が確認され、東側 d~g トレンチでは落ち込みが認められる。そして、b・c・l・n トレンチ

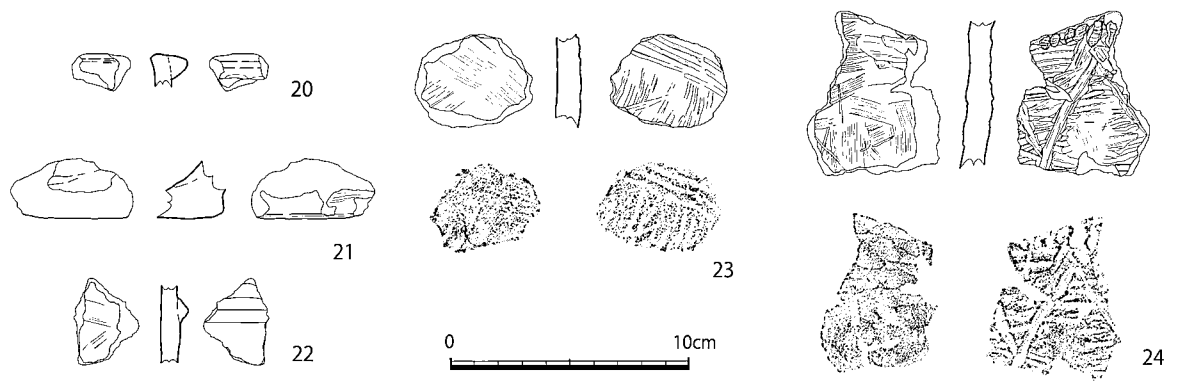
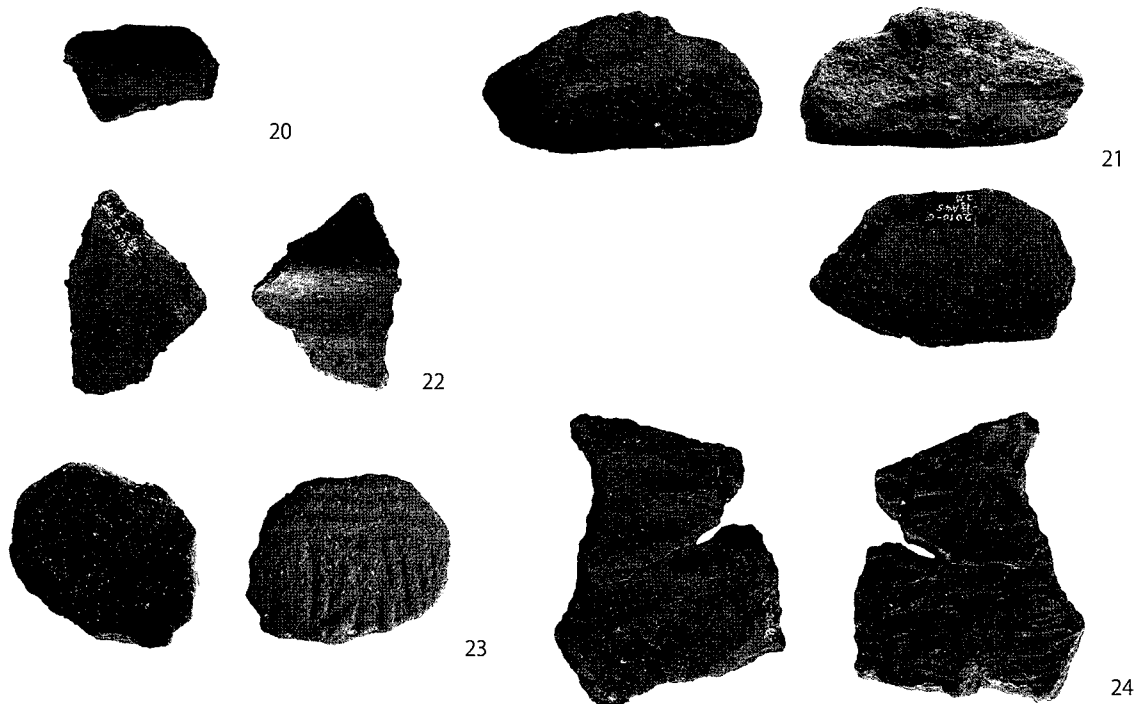


Fig. 20 2010-C. A・B地点 出土遺物



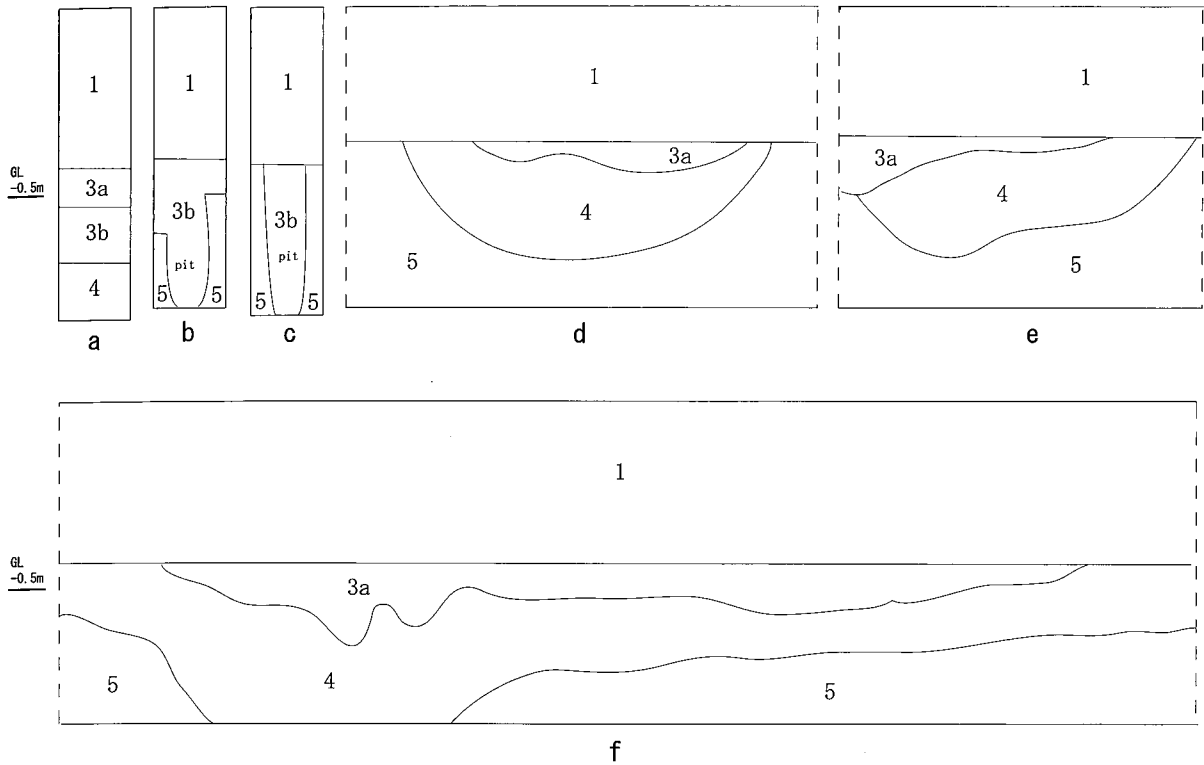
PL. 10 2010-C. A・B地点 出土遺物

Tab. 4 2010-C. A・B地点 出土遺物観察表

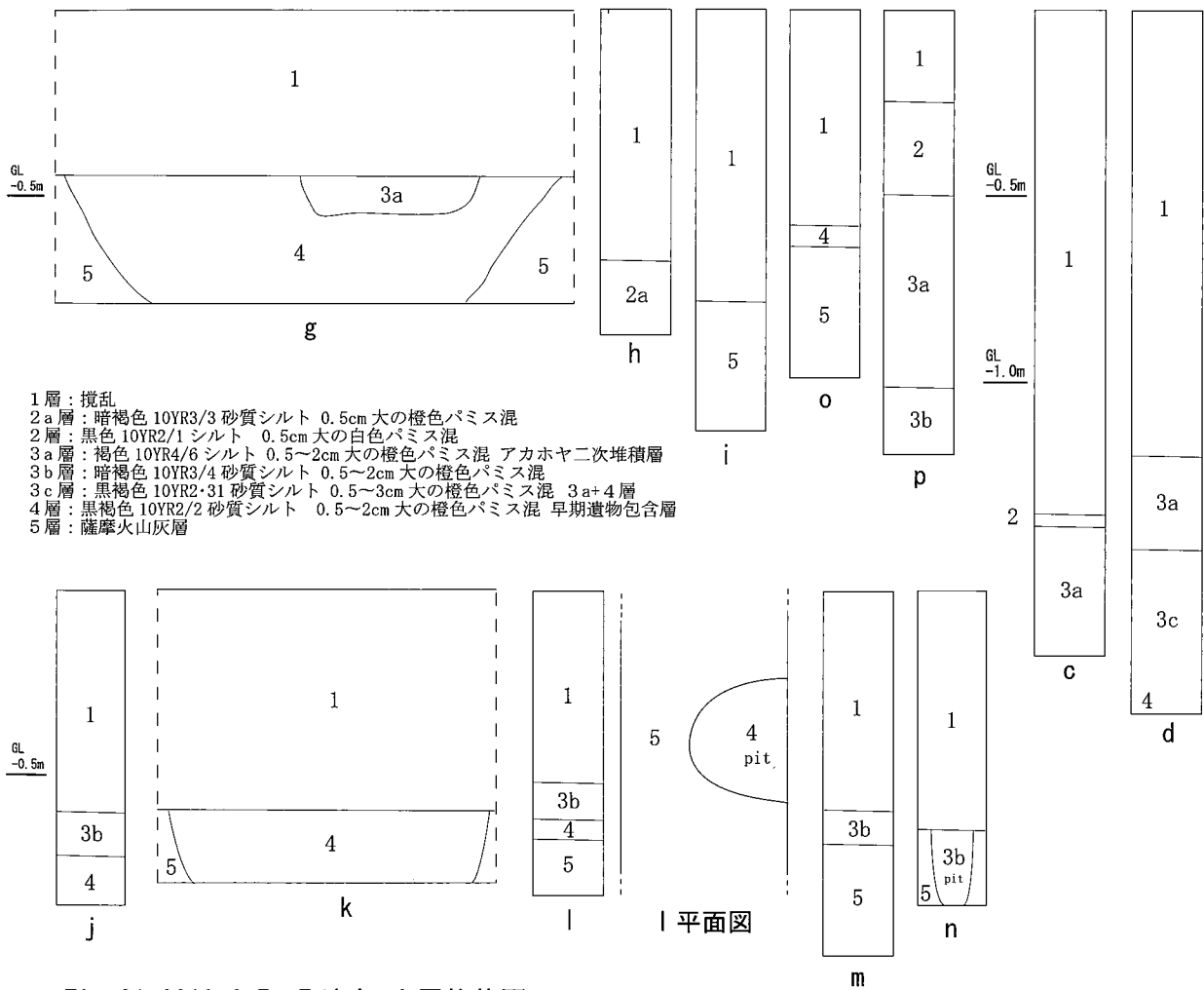
Fig.	No.	出土地点	層位	種別	器種	部位	色調	調整	備考
20		A地点fトレンチ	2	弥生土器	甕	口縁部	外面：明褐 7.5YR5/6 内面：明褐 7.5YR5/6	外面：ヨコナデ, ユビオサエ	
21		A地点d・eトレンチ	2	縄文土器	深鉢	底部	外面：明褐 7.5YR5/6 内面：橙 7.5YR6/8	外面：ミガキあり	
22		B地点dトレンチ	3	弥生土器	深鉢	胴部	外面：にぶい褐 7.5YR5/4 内面：明褐 7.5YR5/6	外面：ナデ (-) 内面：ナデ (\-)	
23		B地点dトレンチ	3	縄文土器	深鉢	胴部	外面：橙 5YR6/6 内面：灰黄褐 10YR5/2	外面：貝殻条痕 (\) (/) 内面：縦方向の条痕の後ナデ	
24		B地点dトレンチ	5	縄文土器	深鉢	胴部	外面：にぶい褐 7.5YR5/4 内面：橙 7.5YR6/6	内面：ケズリ→ナデ	

で3b・4層土を埋土とするピットが検出されている。また、看護士寮に向かう南北方向のh～oトレンチは、地表下約50～60cmで遺物包含層が残存する。kトレンチでは落ち込みが確認され、l・nトレンチではピッ

2010-C. E 地点



2010-C. F 地点

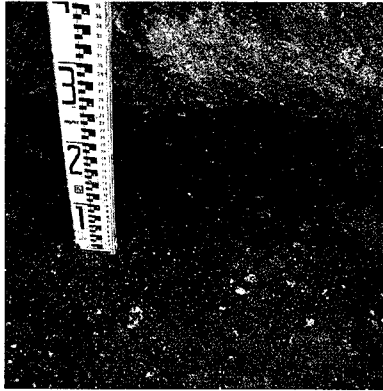


- 1層：攪乱
- 2a層：暗褐色 10YR3/3 砂質シルト 0.5cm 大の橙色バミス混
- 2層：黒色 10YR2/1 シルト 0.5cm 大の白色バミス混
- 3a層：褐色 10YR4/6 シルト 0.5~2cm 大の橙色バミス混 アカホヤ二次堆積層
- 3b層：暗褐色 10YR3/4 砂質シルト 0.5~2cm 大の橙色バミス混
- 3c層：黒褐色 10YR2~31 砂質シルト 0.5~3cm 大の橙色バミス混 3a+4層
- 4層：黒褐色 10YR2/2 砂質シルト 0.5~2cm 大の橙色バミス混 早期遺物包含層
- 5層：薩摩火山灰層

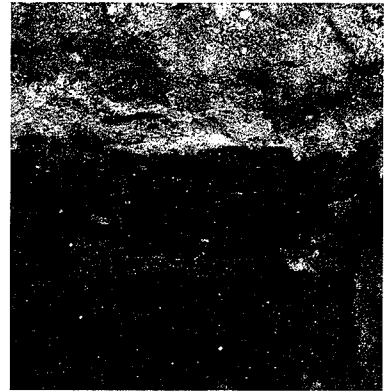
Fig. 21 2010-C. E・F 地点 土層柱状図



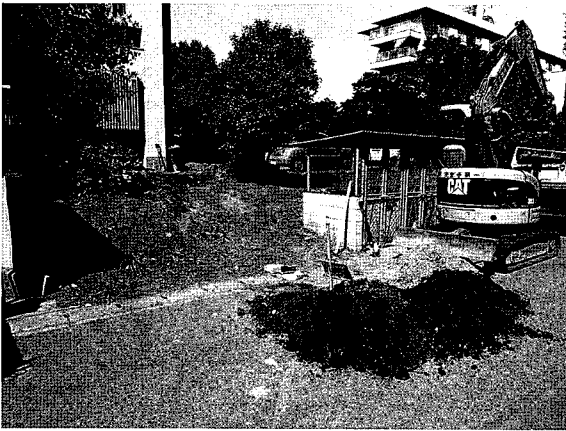
2010-C A地点b・cトレンチ（東より）



2010-C A地点eトレンチ南壁



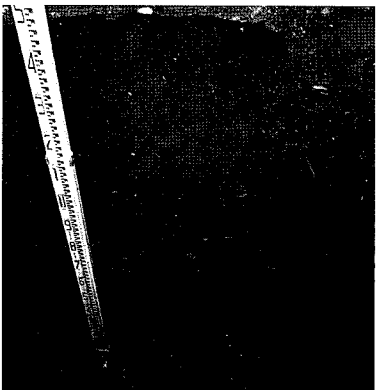
2010-C A地点dトレンチ南壁



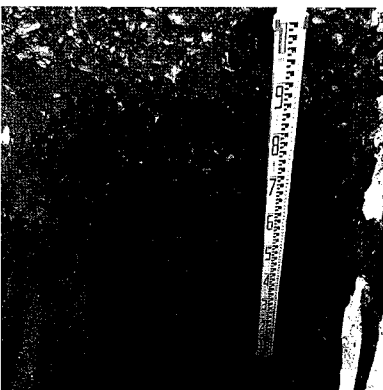
2010-C B地点b・cトレンチ調査風景（南より）



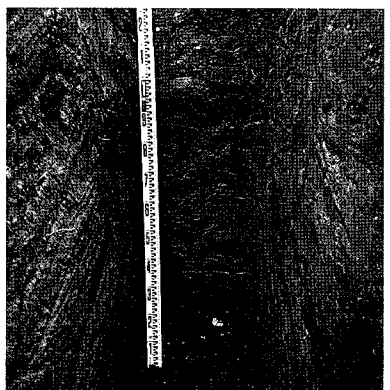
2010-C B地点a・bトレンチ調査風景（東より）



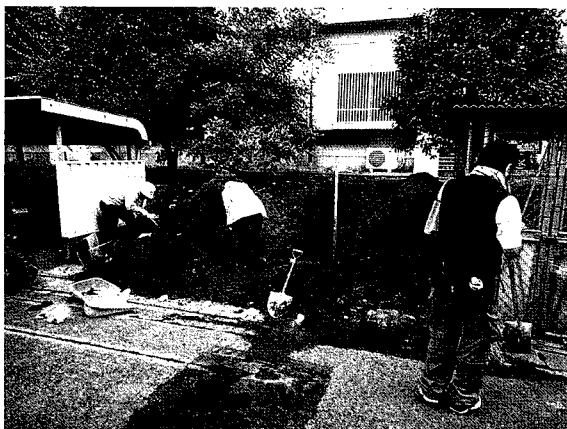
2010-C B地点bトレンチ南壁



2010-C B地点cトレンチ壁面



2010-C B地点dトレンチ壁面



2010-C B地点dトレンチ調査風景



2010-C D地点2トレンチ調査風景



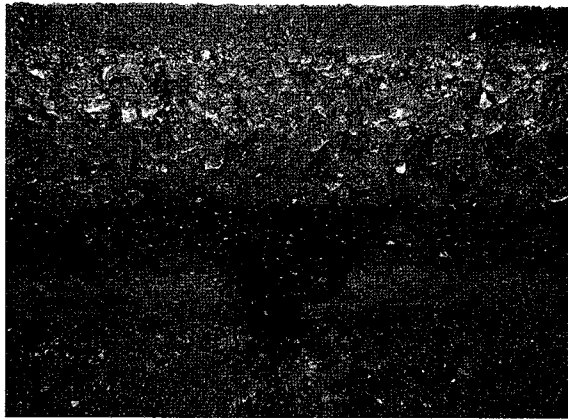
2010-C E地点 (西より)



2010-C E地点 a トレンチ南壁



2010-C E地点 b トレンチ南壁ビット検出



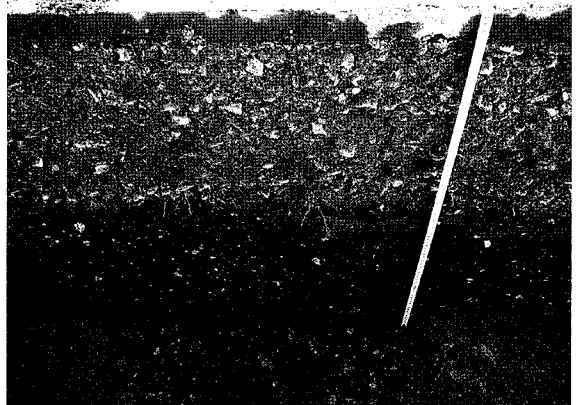
2010-C E地点 c トレンチ南壁



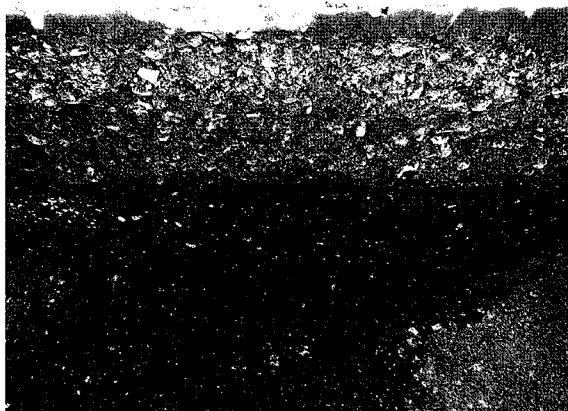
2010-C E地点 b トレンチ南壁



2010-C E地点 e トレンチ南壁



2010-C E地点 f トレンチ南壁



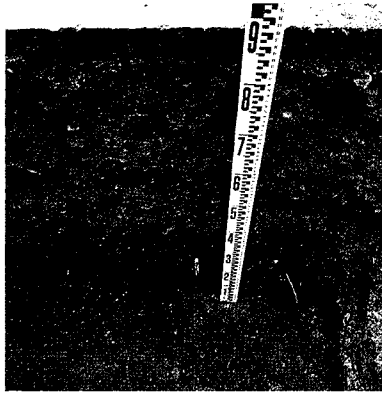
2010-C E地点 g トレンチ南壁



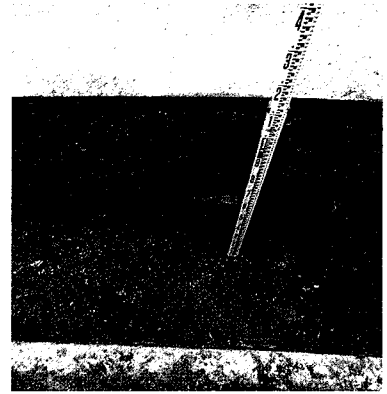
2010-C E地点埋設状況



2010-C E地点 (南より)



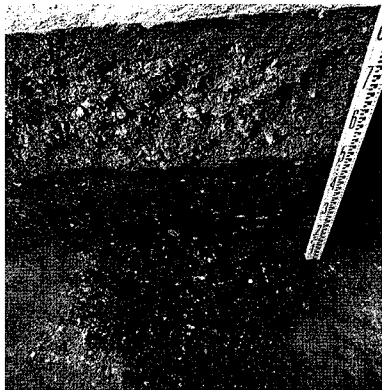
2010-C E地点hトレンチ西壁



2010-C E地点iトレンチ西壁



2010-C E地点jトレンチ西壁



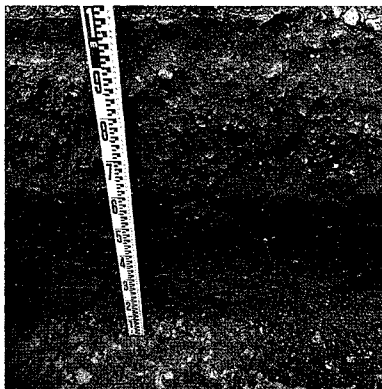
2010-C E地点kトレンチ西壁



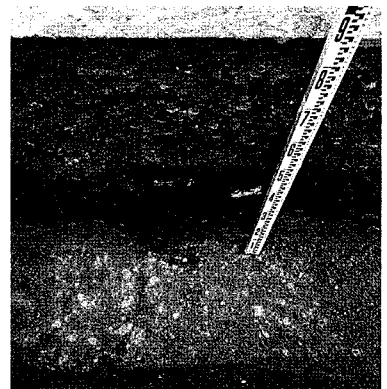
2010-C E地点lトレンチ西壁



2010-C E地点lトレンチピット検出状況



2010-C E地点mトレンチ西壁



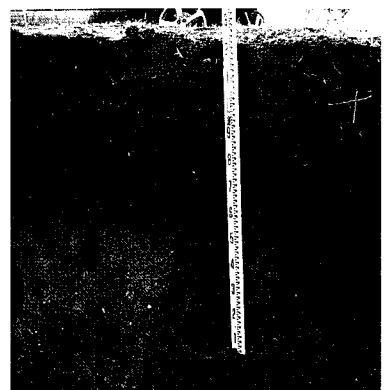
2010-C E地点nトレンチ南壁



2010-C E地点oトレンチ南壁



2010-C E地点pトレンチ掘削(西より)



2010-C E地点pトレンチ北壁

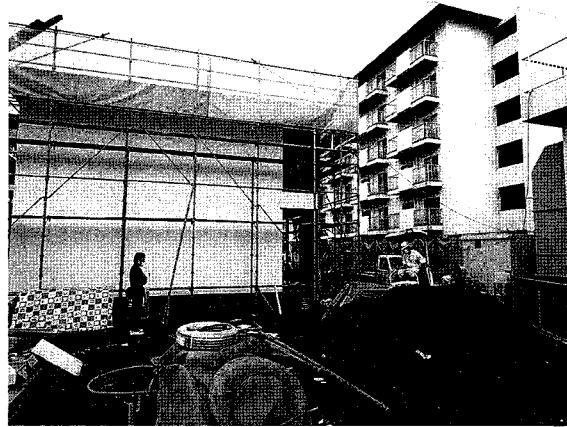
PL. 13 2010-C.E地点 各トレンチ掘削状況



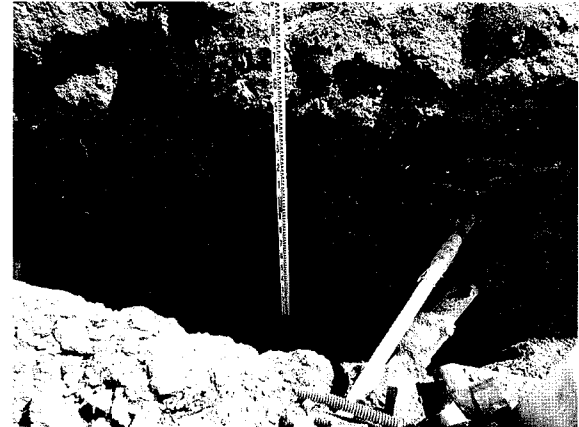
2010-C F地点配水管地点北より



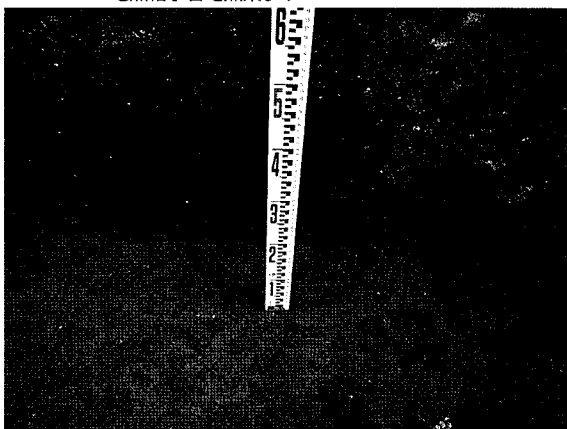
2010-C F地点aトレンチ北壁



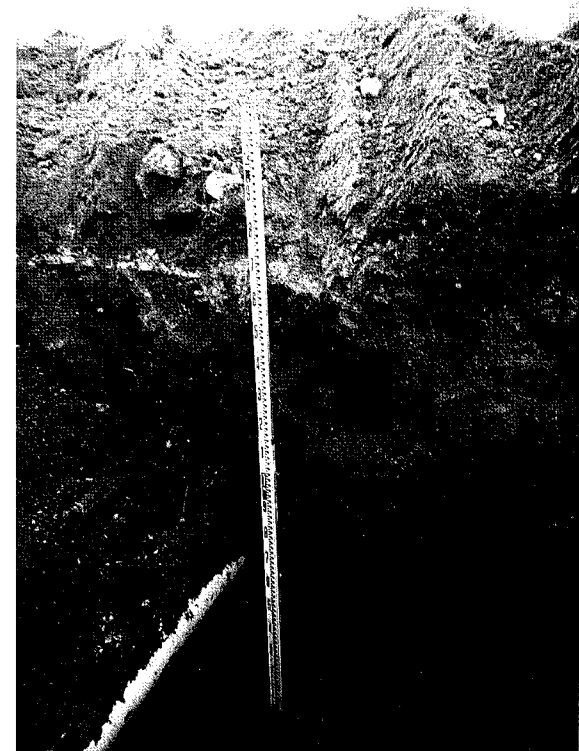
2010-C F地点給水管地点東より



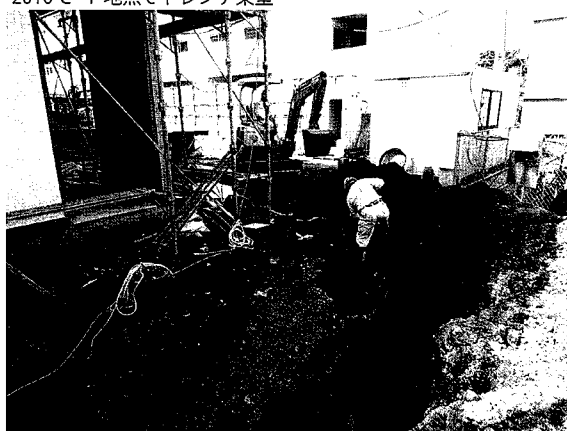
2010-C F地点給水管地点cトレンチ東壁



2010-C F地点cトレンチ東壁



2010-C F地点給水管地点dトレンチ北壁



2010-C F地点給水管地点東より

トが確認された。本地点北接の土手で弥生土器を含む土器小片を表採した。また、西側 p 地点 2 層下部より弥生土器小片 2 点が出土している。

F 地点では、レジデントハウス北東側の排水地点である a・b トレンチは、共同溝が入っている地点であったため、a トレンチは 69cm, b トレンチは 75cm の深さで攪乱であった。また、給水地点は既設管の深さが不明であったため、切り回し工事の関係上 c・d トレンチは深く掘削することになった。c・d トレンチは 120～130cm の深さで攪乱であり、その下位層にはアカホヤ火山灰層が認められた。2・3a 層より土器小片が出土した。

2010-D 郡元団地 I-12 区

(機械工学科 2 号棟電気室改修工事)

調査地点 郡元団地 I-12 区

調査期間 2010 年 12 月 6 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 野邊盛雅

鹿児島大学埋蔵文化財調査室 新里貴之

工学部機械工学科第 3 実験棟と 2 号棟の間に東西ラインで電気配管工事を行うことになり、3ヶ所 a～c トレンチにて土層確認を行った。攪乱層より下位層の 2～5 層は水田層と想定され、層序より東から西へ傾斜する旧地形が想定される。各トレンチとも遺物は出土していない。

2010-E 桜ヶ丘団地 G-10 区 (レジデントハウスその他新営工事)

調査地点 桜ヶ丘団地 G-10 区

調査期間 2011 年 1 月 11, 31 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 上村俊洋

鹿児島大学埋蔵文化財調査室 新里貴之

2011 年 1 月 11 日、レジデントハウス西側の西側に設置されている擁壁撤去工事に伴い、工事地点 z トレンチの土層観察を行った。北側は攪乱であるが、東壁側に包含層が残存していた。地表下 35cm でアカホヤ火山灰層が確認され、その下位層には黒褐色土が確認されたが、層が安定しておらず横転の可能性がある。土器小片を 1 点採集している。2011 年 1 月 31 日、レジデントハウス周辺のハンドホール 2 ヶ所の掘削を行った。x トレンチは水槽のためか 130cm 深度で攪乱であった。y トレンチは地表下 65cm で暗褐色土層、さらにその下位 15cm に薩摩火山灰層を確認した。

2010-F 桜ヶ丘団地 H-10 区 (看護師宿舎駐車場整備工事)

調査地点 桜ヶ丘団地 H-10 区

調査期間 2010 年 11 月 2 日

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 新里貴之

看護師宿舎駐車場整備のため、H-10 区の樹木の移植された低平な盛り上がった部分を駐車場とするために削平することとなった。この盛り上がり、本来の土層が残された部分であるのか盛土であるのか表面からは確認できなかった。表土の厚さを確認するため表土のみの試掘を 2011 年 11 月 2 日に実施した。立会前の表土厚をみるための掘削であったため、埋蔵文化財調査室が独自で行った。掘削地点は西側が高まっており、東西方向に電気配管ラインを確認した (Fig.18)。そのため西側の高まりを主体に 5ヶ所にトレン

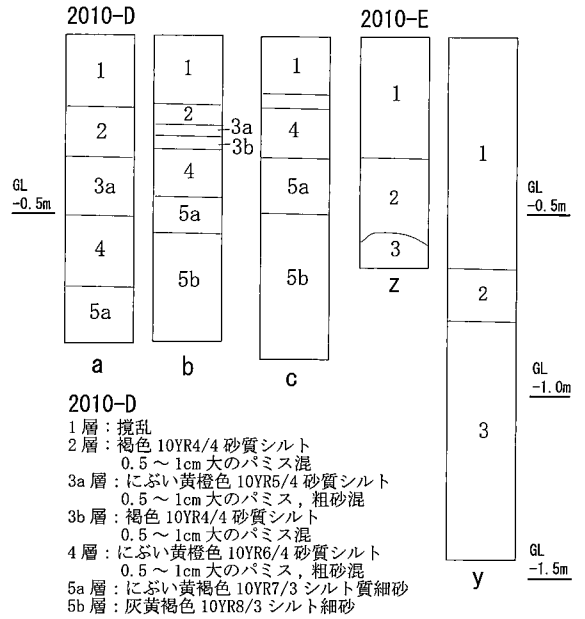
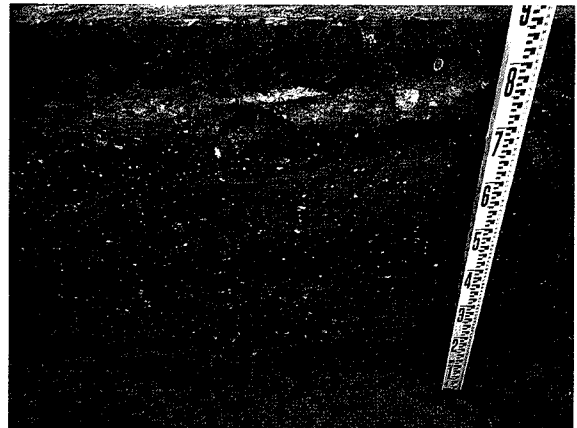


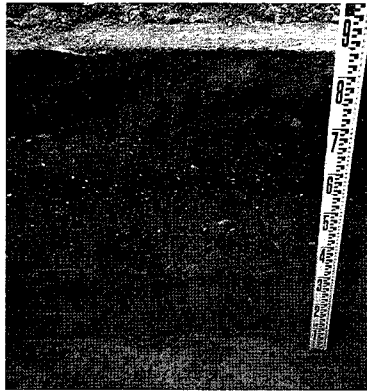
Fig. 22 2010-D・2010-E 土層柱状図



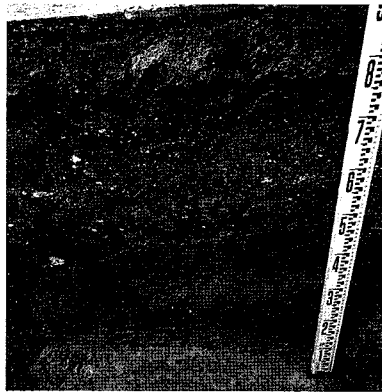
2010-D 調査風景 (西より)



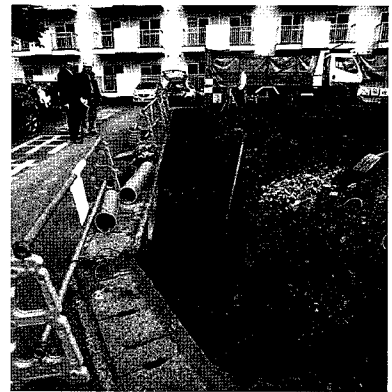
2010-D a 地点北壁



2010-D b 地点北壁



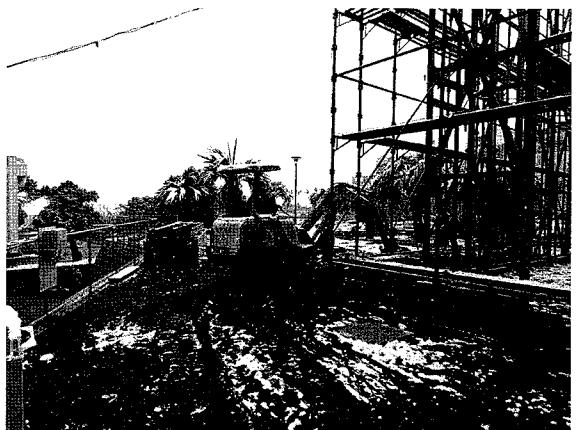
2010-D c 地点北壁



2010-E 擁壁撤去部 南より



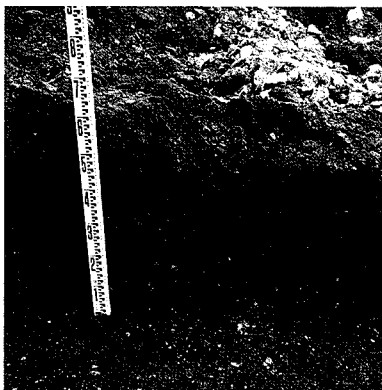
2010-E 擁壁撤去部 南より



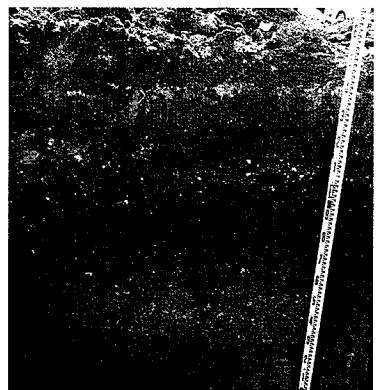
2010-E x トレンチ西より



2010-E y トレンチ南より



2010-E 擁壁撤去部 z トレンチ



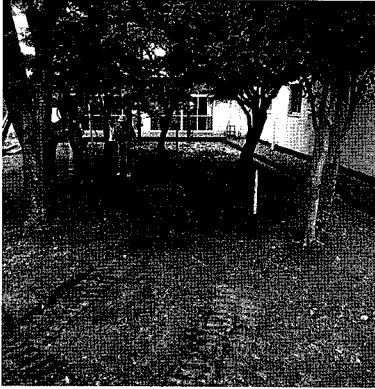
2010-E y トレンチ南壁



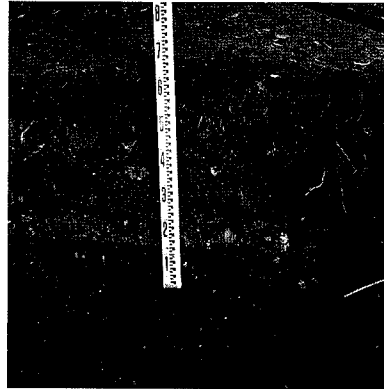
2010-F 工事地点 (西より)



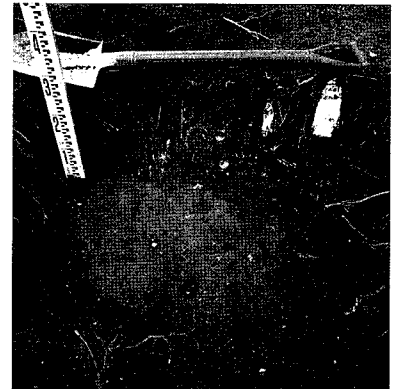
2010-F 工事地点 (東より)



2010-F 1 トレンチ周辺西より



2010-F 1 トレンチ東壁



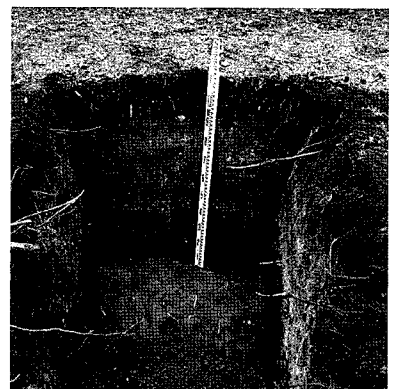
2010-F 2 トレンチ東壁



2010-F 3 トレンチ西壁



2010-F 4 トレンチ西壁



2010-F 5 トレンチ南壁



2010-F 3 トレンチ周辺東より



2010-F 5 トレンチ周辺西より

チを設定して確認したところ、2層（アカホヤ火山灰二次堆積層：褐色 10YR4/6 シルト層、0.5～1cm大の橙色パミスが混ざる）と3層（黒褐色 10YR2/2 シルト層、畑層の可能性有り）が認められた。各トレンチの表土層下の状況は、1トレンチでは60cm深度で3層、2トレンチでは30cm深度で3層（土器小片出土）、3トレンチでは80cm深度で2層と3層、4トレンチでは80cm深度で3層、5トレンチでは110cm深度で3層が確認された。

この結果から、西側の高い部分は全てが築山となっていることが判明し、包含層の状況としては、5ヶ所の掘削地点で設計の5cm下位において良好な包含層（アカホヤ火山灰層）が判明した。そのため、包含層を保護するため盛土をして設計することができないか、医・歯学部管理課、業者との協議で設計よりも20cm高く設計変更することで合意した。したがって削平は一部となり、ほとんどを盛土とすることとなった。したがって、土木工事に関しては結果的には慎重工事に対応することとなった。

2010-G 郡元団地G・H-9・10区、桜ヶ丘団地K・L-10区
（基幹整備（防災設備等改修）工事）

調査地点 郡元団地G・H-9・10区、桜ヶ丘団地K・L-10区
調査期間 2011年1月5日、11日
調査担当 鹿児島市教育委員会 上村俊洋
鹿児島大学埋蔵文化財調査室 新里貴之

基幹整備（防災設備等改修）工事の一環として、郡元キャンパスで2ヶ所4地点、桜ヶ丘キャンパスで3ヶ所9地点の外灯設置工事を行うこととなった。遺物包含層が残存している可能性がある場所は、郡元キャンパスで1ヶ所3地点（a～c地点）、桜ヶ丘キャンパスで1ヶ所2地点（d・e地点）と考えられ、これらの地点については立会調査が必要となった。

郡元キャンパスa地点では、地表下105cmが攪乱層であったが、時期不明土器小片が1点出土している。b地点は地表下135cmは攪乱、c地点は地表下70cmは攪乱であった。そして、桜ヶ丘キャンパスでは、d地点地表下60cmで掘削部の北東隅に若干黒色シルト層（弥生包含層か）が残存していたが遺物は出土していない。また、e地点は110cm深度で攪乱層であった。

2010-H 郡元団地R-4区（鹿児島大学（郡元）附属小学校校内水道設備工事・附属幼稚園園内の水道設備工事）

調査地点 郡元団地R-4区
調査期間 2011年3月29日
調査担当 鹿児島市教育委員会 野邊盛雅
鹿児島大学埋蔵文化財調査室 中村直子

附属小学校、附属幼稚園内の水道設備及び教室の補修整備行われることになり、大半は表土内の掘削でおさまるため慎重工事対応となったが、附属小学校の水道管理設部分は表土層深度が約40cmであるのに対し、掘削深度が70cmであることから立会調査を行うこととなった。掘削確認地点はa地点であるが、地表下65cmの深度まで攪乱層であった。

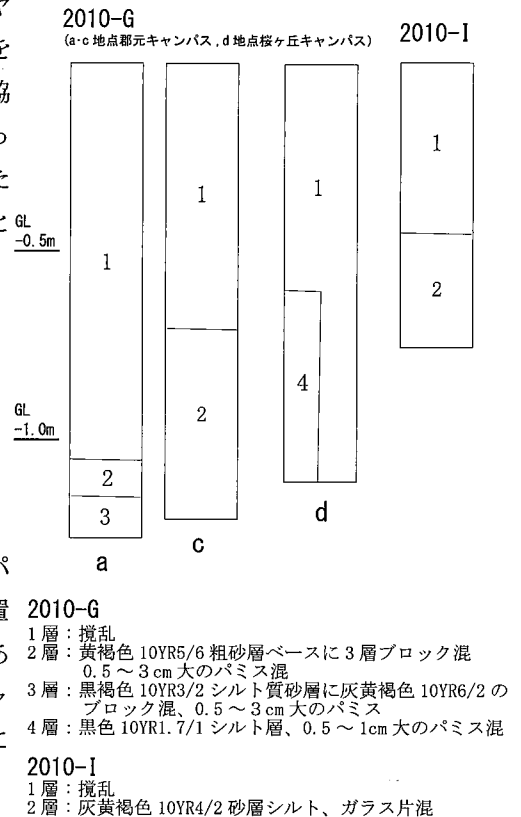


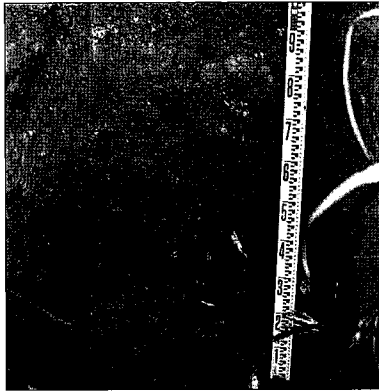
Fig. 23 2010-G・I 土層柱状図



2010-G a地点 (東より)



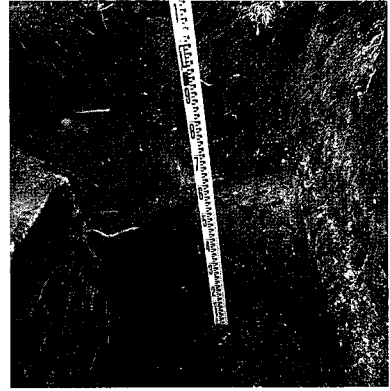
2010-G c地点 (東より)



2010-G a地点西壁



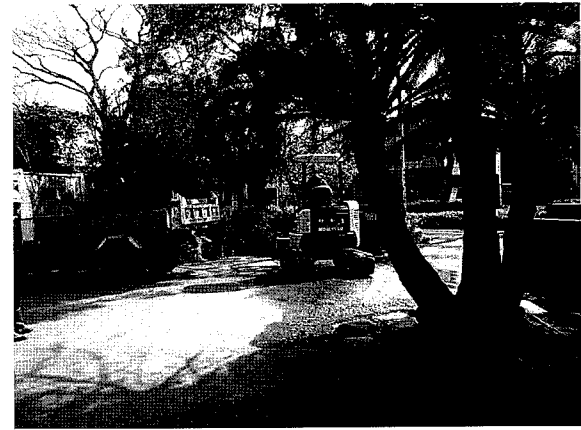
2010-G c地点西壁



2010-G d地点東壁



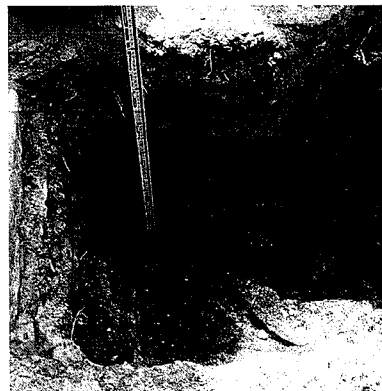
2010-G d地点東より



2010-H a地点南西から



2010-I a・b地点北から



2010-I a地点北壁



2010-I b地点

2010-I 郡元団地 R・S-5・6 区（鹿児島大学（郡元）附属小学校校内樹木移植工事）

調査地点 郡元団地 R・S-5・6 区

調査期間 2011 年 3 月 29 日

調査担当 鹿児島市教育委員会 野邊盛雅

鹿児島大学埋蔵文化財調査室 中村直子

補正予算により、樹木（おおぎり）移植工事が決定し、4ヶ所（a～b 地点）の掘削が行われた。b～d 地点では地表下 60cm 掘削を行ったが攪乱層であった。d 地点より土師器片が出土している。a 地点の掘削では、地表下 45cm で水田層（時期不明）が確認された。

IV 遺物整理

平成 22（2010）年度の報告書第 6 集の掲載遺物である昭和 50（1975）年に鹿児島県教育委員会によって調査された釘田遺跡第一地点発掘調査の出土遺物の実測・トレースを平成 21 年度より引き続き行った。また、平成 22 年度（2010）年度の年報 25 掲載遺物である、平成 21 年度立会調査遺物（2009-A～Q）の洗浄・注記・実測・トレースを行った。

V 刊行物

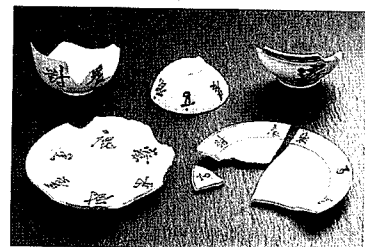
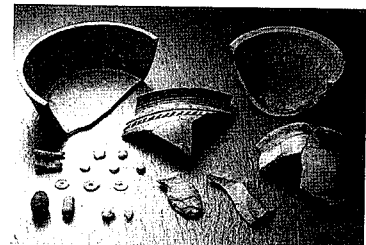
昭和 50 年に調査を行った釘田遺跡第一地点の発掘調査報告を掲載した「鹿児島大学埋蔵文化財調査報告書 第 6 集 鹿児島大学構内遺跡 釘田遺跡第一地点」ならびに、平成 21 年度の発掘調査概要報告（2009-1・2）、試掘調査報告（2009-3）、立会調査報告（2009-1-A～Q）などを掲載した「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 25」を刊行した。

VI 遺物保管

遺物保管作業としては、平成 22（2010）年 5 月 21 日、6 月 8、11、14 日に遺物収蔵状況確認を 10ヶ所で行った。また、工学部実験工場、理工学部廃液処理室に保管してある木製品保管水槽の水替え作業を平成 23 年 3 月 28～31 日に行った。



農学部 100 周年記念展示室内様子



鹿児島大学構内遺跡の農学部敷地では、弥生時代の住居跡（約 2000 年前）や江戸時代の水田跡（17～19 世紀）がみつかり、日本列島に農耕がもたらされてから、薩摩藩制時代までの農業史を知る上で重要な遺跡となっています。そのほかにも鹿児島大学の前身である「鹿児島高等農林学校」の寄宿舎である「対岳寮」の食器類が出土しました。現在、唐湊学生寮にその名をとどめる対岳寮は、農学部研究棟 A 付近にありました。この寮で専用の食器があったことは文書記録がなく、発掘調査によって初めて明らかになりました。窯元は明らかでなく詳細の分析は今後も続けられますが、「鹿高農対岳寮」と使用場所が明記されていることから、極めて限定された消費地の遺跡で確認される貴重な遺物と言えるでしょう。（埋蔵文化財調査室）

リーフレット

Ⅶ その他事業

1. 農学部 100 周年記念展示室 (P L .17)

平成 21 年に催行された農学部開学 100 周年記念事業に関連し、収集された貴重な資料を展示するために、平成 22 年 7 月 1 日、農学部共通棟 2 階に「農学部 100 周年記念展示館」がオープンすることになった。それに伴い、遺物展示作業と配布用リーフレットの作成を平成 22(2010) 年 5 月 19～21 日に行った。

2. 公開講座

平成 21 (2009) 年 9 月 11 日、総合教育研究棟において『南日本先史時代の生活』というテーマで、「先史時代の食べもの」「洞窟発見の縄文時代人骨」「石器の観察からわかること」についての講演を行った。約 40 名の参加があった。



PL. 19 公開講座風景

3. 発掘調査の紹介・資料報告

新病棟建設予定地における発掘調査 (2009-4) が、『桜ヶ丘だより 18 号』にて紹介されたほか、鹿児島大学の環境に関する取り組みや研究について報告された『環境報告書 2010』にて、「鹿児島大学構内遺跡の先史時代遺物から考えるエコロジー」と題して、構内遺跡出土遺物資料を紹介した。

4. 遺物資料貸出

鹿児島県上野原縄文の森第 29 回企画展「古代アクセサリーの魅力」のため、郡元団地遺跡群より出土した石製垂飾品 (球状耳飾の転用品) を平成 22 (2010) 11 月 16 日～平成 23 (2011) 年 3 月 31 日 (展示期間平成 22 年 12 月 4 日～平成 23 年 3 月 21 日) の期間中貸出を行った。

5. 陶芸教室・土器製作・土器野焼き実験

桜ヶ丘団地 D・E-6・7 区新病棟建設工事に伴う発掘調査 (平成 22 年 3 月～平成 23 年 1 月) の際、薩摩火山灰層直下のいわゆる「チョコ層」を粘土として使用し、陶芸教室と野焼き実験を行った。その詳細は、「チョコ層」による土器作り実験レポート」中村直子・長尾聡子 (『南九州縄文通信』21 南九州縄文研究会) に掲載されている。学生や多くの一般市民の参加も得ることができ、有意義な普及啓発活動となった。



陶芸教室



陶芸教室



穴窯



開放型



覆い型



煮沸実験



オキをあて加熱



煮沸実験 炊き上がり

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 26

2012年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目21-24
TEL 099-285-7270

印刷 斯文堂株式会社
鹿児島市南栄2-12-6
TEL 099-268-8211

Kagoshima University

Research Center for Archaeology

Report Vol.26

CONTENTS

Chapter

1 Report of archaeological research in fiscal year 2010	4
2 Report of test excavation at Area G-10 and D ~ F-3・4 in Sakuragaoka Campus	9
3 Report of rescue surveys 2010.....	21
4 ~ 7 Report of other jobs.....	36

Published by
Kagoshima University Research Center for Archaeology
2012